

箱 崎 60

—箱崎遺跡第 95 次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1425 集

2 0 2 1

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも東区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する箱崎遺跡の発掘調査報告書は共同住宅建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では古代末から中世の集落を確認しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料としてご活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、事業者様をはじめとして多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2021年3月25日

福岡市教育委員会
教育長 星子明夫

例言

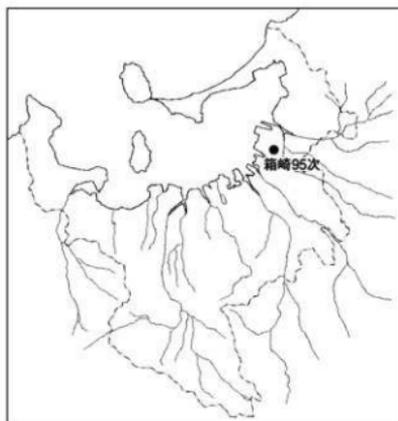
- 本報告書は東区箱崎1丁目2672、2684-1の共同住宅建設工事に伴って2019年3月11日から2019年5月29日にかけて発掘調査を行った箱崎遺跡第95次調査の報告書である。
- 本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の三浦悠葵と屋山洋が担当した。
- 遺構実測は三浦・屋山が、製図は屋山が担当した。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
- 貿易陶磁の分類は大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-(2000年)太宰府市教育委員会を参照した。

遺跡調査番号	1842	遺跡番号	2639	分布地図番号	箱崎34
調査地番	福岡市東区箱崎1丁目2672、2684-1				
開発面積	600.15㎡	調査面積	186㎡	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20190311 ~ 20190529		担当者	三浦悠葵・屋山洋	

箱崎 60

—箱崎遺跡第95次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1425 集



遺跡略号 HKZ-95

調査番号 1842

2021

福岡市教育委員会

目次

I. はじめに	1	2) 掘立柱建物	15
II. 調査の記録	1	3) 土坑	15
1) 井戸	5	4) 溝	26

挿図

第 1 図	遺跡分布図	2	第 18 図	SE2060 実測図 4	19
第 2 図	調査地点位置図	2	第 19 図	SB01 実測図	20
第 3 図	調査範囲図	3	第 20 図	SK0122 実測図	21
第 4 図	1 面全体図	4	第 21 図	SK0122 出土遺物	22
第 5 図	2 面全体図	5	第 22 図	SK0174 上層実測図	23
第 6 図	3 面全体図	6	第 23 図	SK0174 下層実測図	24
第 7 図	4 面全体図	7	第 24 図	SK0174 出土遺物	25
第 8 図	5 面全体図	8	第 25 図	土坑 1	27
第 9 図	6 面全体図	9	第 26 図	土坑 2	28
第 10 図	調査区東壁南側土層図	10	第 27 図	土坑 3	29
第 11 図	SE0225・0226 実測図	11	第 28 図	土坑 4	30
第 12 図	SE0336 実測図	12	第 29 図	土坑 5	31
第 13 図	SE2055 実測図	13	第 30 図	土坑 6	32
第 14 図	SE2096・2097 実測図	14	第 31 図	土坑 7	33
第 15 図	SE2060 実測図 1	16	第 32 図	SD2001 実測図 1	34
第 16 図	SE2060 実測図 2	17	第 33 図	SD2001 実測図 2	35
第 17 図	SE2060 実測図 3	18			

図版目次

図版 1	1) I 区 1 面全景 (西から)	2) II 区 1 面全景 (東から)
図版 2	1) I 区 2 面全景 (西から)	2) II 区 2 面全景 (東から)
図版 3	1) I 区 3 面全景 (西から)	2) II 区 3 面全景 (東から)
図版 4	1) I 区 4 面南半 (西から)	2) II 区 4 面南半 (東から)
図版 5	1) I 区 5 面南半 (西から)	2) I 区 5 面北半 (西から)
図版 6	1) II 区 6 面南半 (東から)	2) SE2055 (北から)
	4) SE0226 (北から)	3) SE0225 (西から)
図版 7	1) SE2060 (北東から)	5) SE0336 井筒 (東から)
	3) SK0122 下半土層 (東から)	2) SK0122 上半土層 (東から)
	5) SK0174 上面 (西から)	4) SK0122 完掘 (北から)
	7) SK0174 焼土面 (南から)	6) SK0174 焼土面上遺物出土状況 (南から)
図版 8	1) 0066 (0097) (北から)	8) SK0174 下層 (西北から)
	4) 0156 (北から)	2) 0072 (東から)
	7) 2033 (東から)	3) 0096 (東から)
図版 9	1) 0278 (北から)	5) 0175 検出状況 (北から)
	4) 2199 (北から)	6) 2027 (北から)
	7) SK2057 (西から)	8) 2139 (西から)
図版 10	1) 0182 土層 (北から)	2) 0295 (南西から)
	3) 2210 蛸蓋出土状況 (東から)	3) 2173 (北から)
	5) 2001 下層 B (南から)	5) SK0162 (南から)
図版 11	1) 調査区東壁南半 (西から)	8) SK2058 (南から)
	2) 焼土ブロック整地層下白色粘土整地層上面遺構検出状況 (西から)	2) SE2060 石臼出土状況
図版 12	1) 調査区東壁土層部分 1	4) SD2001 土層 (東から)
		2) 調査区東壁土層部分 2

I. はじめに

1 調査に至る経緯

平成30年(2018年)5月31日付けで東区箱崎1丁目2672、2684-1の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査依頼(30-2-196)が経済観光文化局埋蔵文化財課に提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である箱崎遺跡内に位置しているため10月30日に重機を使用したトレンチ調査を行い、遺構の存在を確認した。その結果を元に原因者側と協議を行い、平成31年(2019年)3月11日から令和元年(2019年)5月29日の期間で発掘調査を行なった。調査期間中は水道・電気の設定など原因者及び関係各位のご協力を頂いた。

2 調査の組織

調査委託 個人

調査主体 福岡市教育委員会(発掘調査 平成・令和元年度：整理報告 令和2年度)

調査統括 福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課

埋蔵文化財調査課長 大庭康時(平成30年度)

菅波正人(令和元・2年度)

同課調査第1係長 吉武 学

庶務 埋蔵文化財審査課管理係 松原加奈枝(平成30年度)

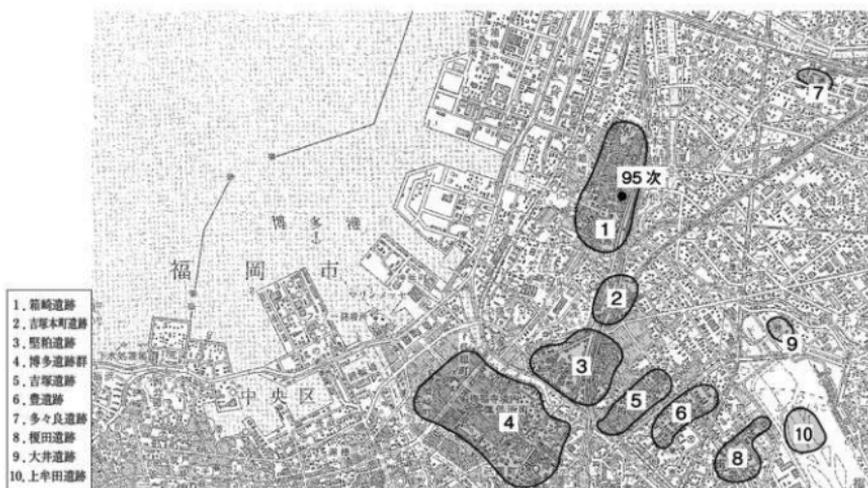
(令和元・2年度)

調査担当 埋蔵文化財調査課 屋山 洋

II. 調査の記録

1 調査の経過

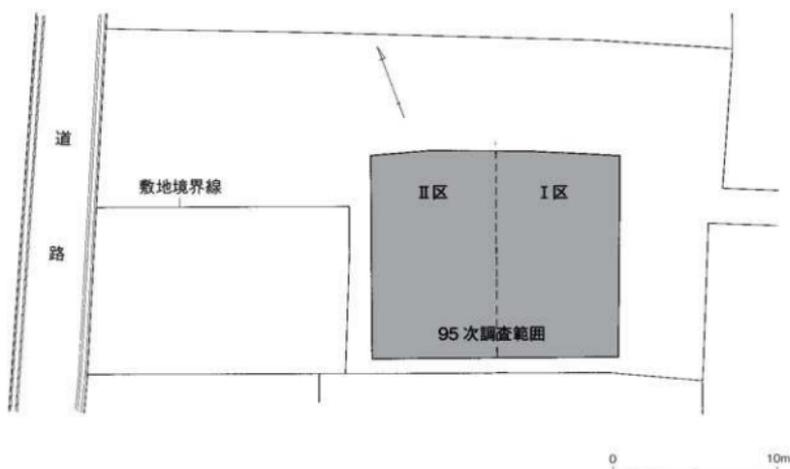
申請地の敷地面積は600.15㎡で全体が開発対象であるが、駐車場など掘削を伴わず埋蔵文化財に影響を及ぼさない部分は調査対象地からはずし、建物基礎により破壊される192.3㎡を調査対象とした。実際には隣地建物に近接する西側と南側は若干の引きをとったため実際の調査面積は186㎡となった。調査は廃土置場の事情からⅡ区にわけ、東側をⅠ区、西側をⅡ区とし、Ⅰ区から発掘調査を開始した。当初は調査面を3面に設定していたが、表土剥ぎの時に焼土ブロックによる整地層を3層とその上下の整地層の存在が判明したことから、焼土ブロック整地層の時期を明確にするためには焼土層の上面と下面、または下側の整地層での調査が必要と考えて調査面を6面に変更した。調査はまず事前の確認調査の結果から近代の攪乱を受けている現地表面から深さ35cm程を重機ですき取り、その面を第1面とした。その後の第6面まではすべて人力で掘り下げた。第1面の標高は北東端で4.2mを測る。第2面は焼土ブロック整地層の上面で標高は4.0m、第3面は焼土ブロック整地層の下面で標高3.9m、第4面は整地層の下で標高3.5m、第5面は古代盛土下面(茶色砂上面)であるが、茶色砂は調査区北側では整地時に削平され、消失している。砂丘面は南側に傾斜しており、調査区中央から南端では茶色砂層がみられた。そのため北側では遺構埋土が茶色砂のものを5面目の遺構とした。標高は南側で3.2mを測る。第6面は遺構は南西部のみの遺存で標高は3.0～3.2m前後である。砂丘面の標高は北東端で標高3.5m以上、南側端3.0mと50cm差だが、北側は茶色砂とともに砂丘面も削られており、本来の高低差は大きかったと推定される。調査は3月11日にⅠ区表土の掘取りを行っ



第1図 遺跡分布図 (1/50,000)



第2図 調査地点位置図 (1/4,000)

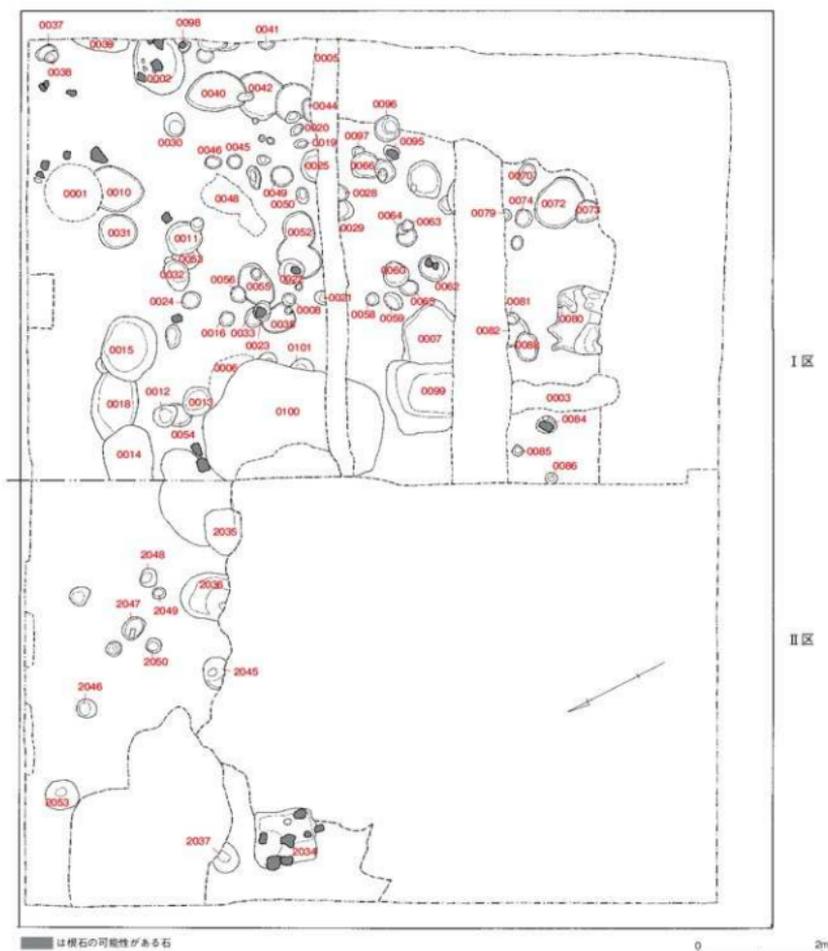


第3図 調査範囲図 (1/300)

た後、3月12日から4月17日までI区の調査を行った。調査は電源の問題からベルトコンベアが使用できず廃土はすべて人力で排出したため、第5面になると地表面まで1.5mと深くなり、廃土搬出の手間は調査に支障をきたした。4月17日に重機を使用して打って返しを行い、4月18日からII区の調査を開始した。5月28日に第6面の調査を終え、翌29日に機材の撤去をしてすべての作業を終了した。

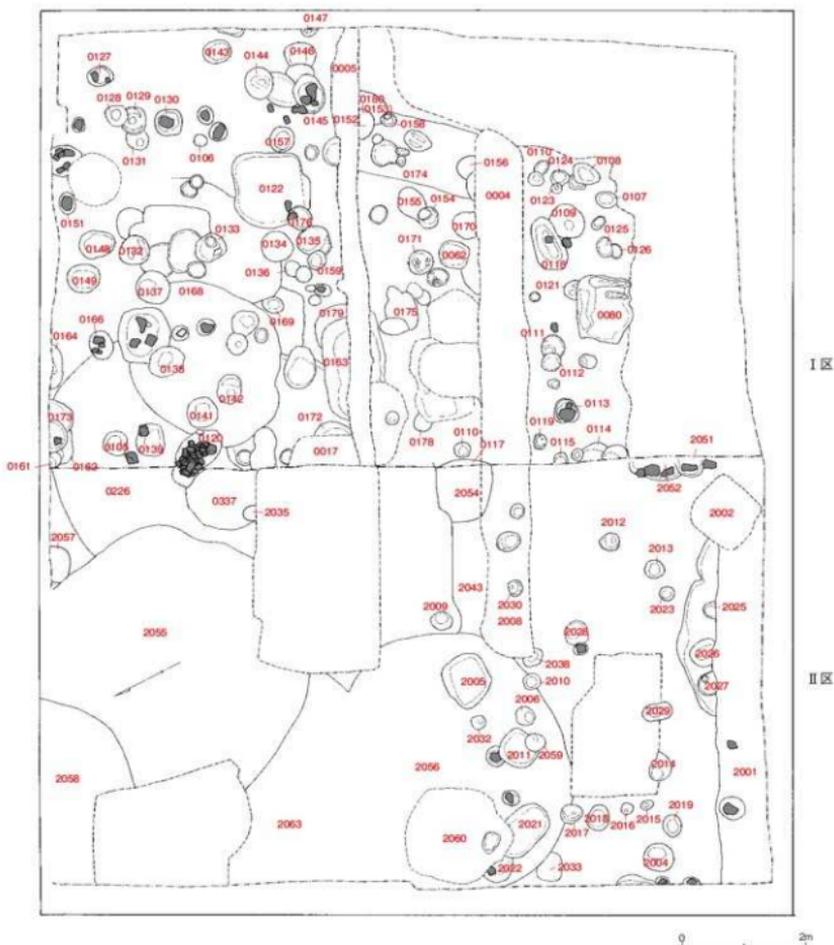
2 調査の概要

第1面は南側縁は近代の溝、II区は現代建物基礎によって南側3/4は削平を受けていた。遺構は柱穴などの比較的径の小さな掘り込みを主とし、時期は14世紀～近代を主とする。2面目は焼土ブロック整地層(第10図30・31層)の上面で検出したもので13世紀～14世紀を主とする。焼土ブロック整地層は細かく割られた焼土塊と暗褐色砂質土、炭化物を主とした層で、焼土片の一部に木舞孔の痕跡が見られることや炉壁とは焼け方が異なることなどから土倉などの壁が火を受けたものと思われるが、これが広い範囲でみられるのは火災後に焼けた壁を砕いて整地を行ったものと考えられる。この整地層は北西側では後世の掘り込みにより削平されていたが、調査区南東から中央部では良好に遺存していた。2面目で検出した遺構は火災後に掘り込まれたもので埋土に焼土ブロックを含むものが多い。遺構は柱穴が多く、土坑が数基程度で柱穴は根石を持つものが多い。井戸は北西に集中しており、この時点では各井戸ごとの掘り込みはきちんと把握できなかったが、井戸の多くはこの面から掘り込まれたものと思われる。3面は焼土ブロック整地層を除去し、薄い白色粘土層の上面で検出を行った。12世紀～13世紀を主とする。柱穴のうち数基は柱痕跡に焼土ブロックが入り込んだものもみられ、これらは火災時に焼け残った柱を抜いたところに整地の焼土が入り込んだもので、火災時に建っていた建物の柱と推定される。第3面では井戸の切り合いがある程度明確になってきたため、井戸の掘り下げを行った。北西隅は井戸の切り合いが激しい。第4面は焼土ブロック層下の整地層は厚さが40cm強あり、その下面を調査面とした。遺構は柱穴と土坑を主とし、11世紀後半～12世紀代



第4図 1面全体図 (1/80)

を主とする。第7図では柱穴が東西方向に並ぶ傾向がみられる。第5面は古代盛土層を除去して茶色砂上面を遺構面とした。第6面は砂丘面を遺構面とした。各遺構から出土した遺物の多くは11世紀後半～13世紀のもので、この時期に多くの土坑や掘立柱建物などが立てられたと考えられるが、それらは井戸を主とする後世の遺構により消滅したものと思われる。

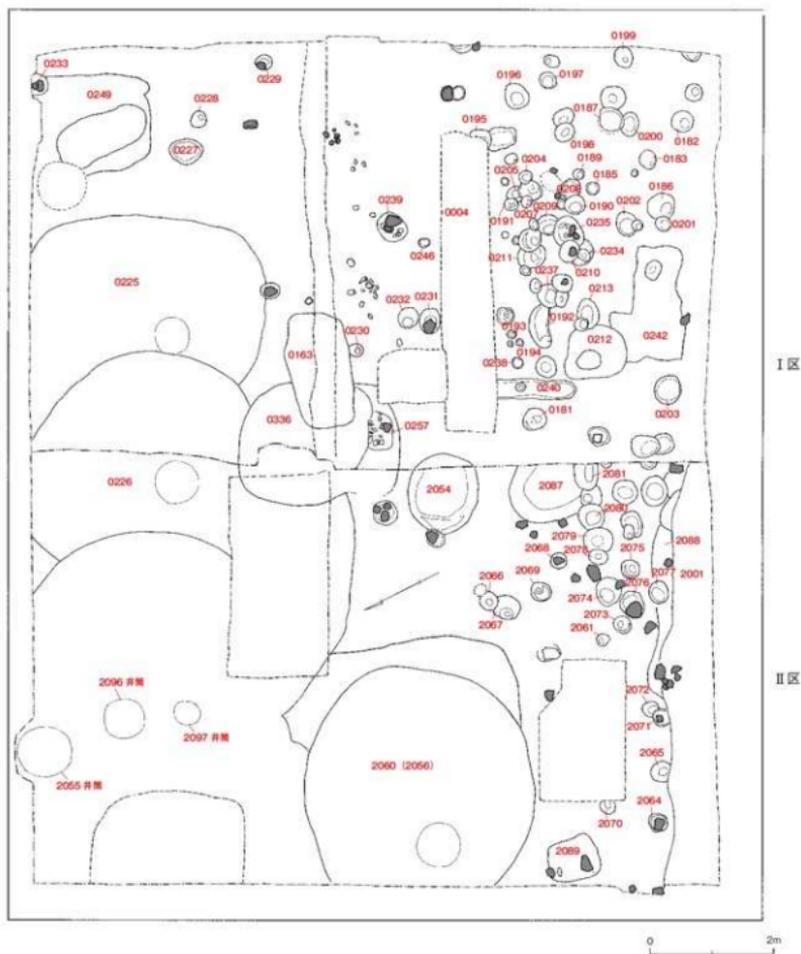


第5図 2面全体図 (1/80)

3 遺構と遺物 今回報告した遺構の出土遺物は表(P34~36)に詳細を記載した。

1) 井戸

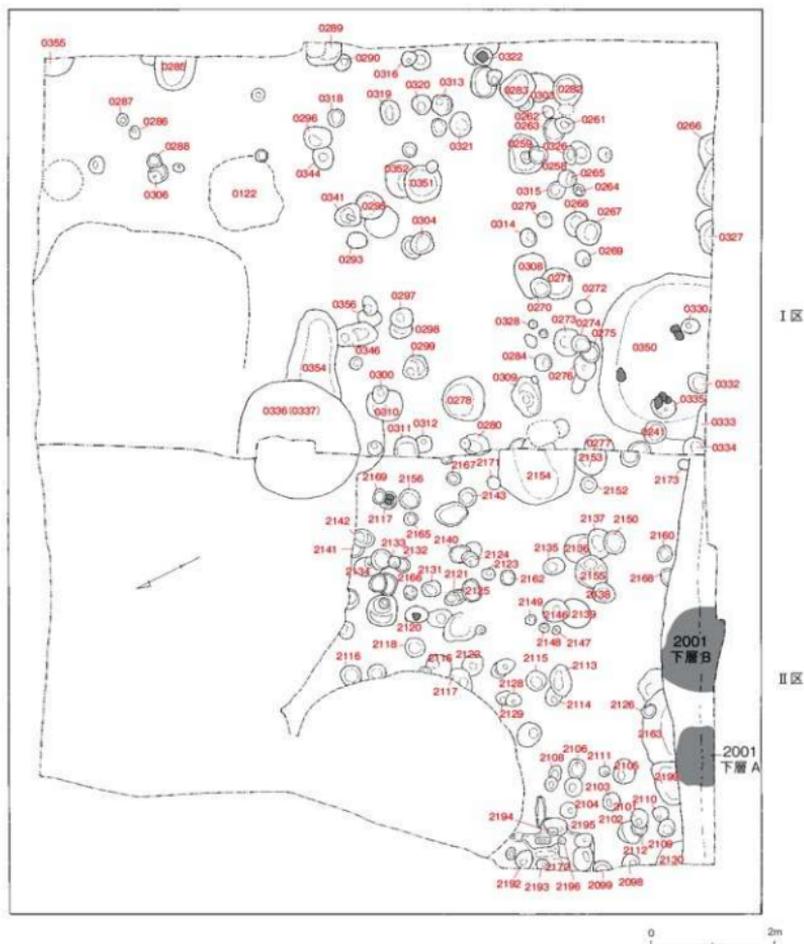
SE0225 (第11図 図版6-3) 第3面に位置する。約4.5×3.2mの平面隅丸方形で検出面から2.8m下に平坦面があり、その中央部を60cm程掘り下げている。井筒の痕跡はなかった。遺物の多くは



第6図 3面全体図 (1/80)

12世紀～13世紀だが14世紀の青磁片が若干含まれる。001は陶器小盤Ⅱ類、002は土師皿、003・004は瓦質鉢である。005は磁石、006は滑石製石鍋の再加工品である。

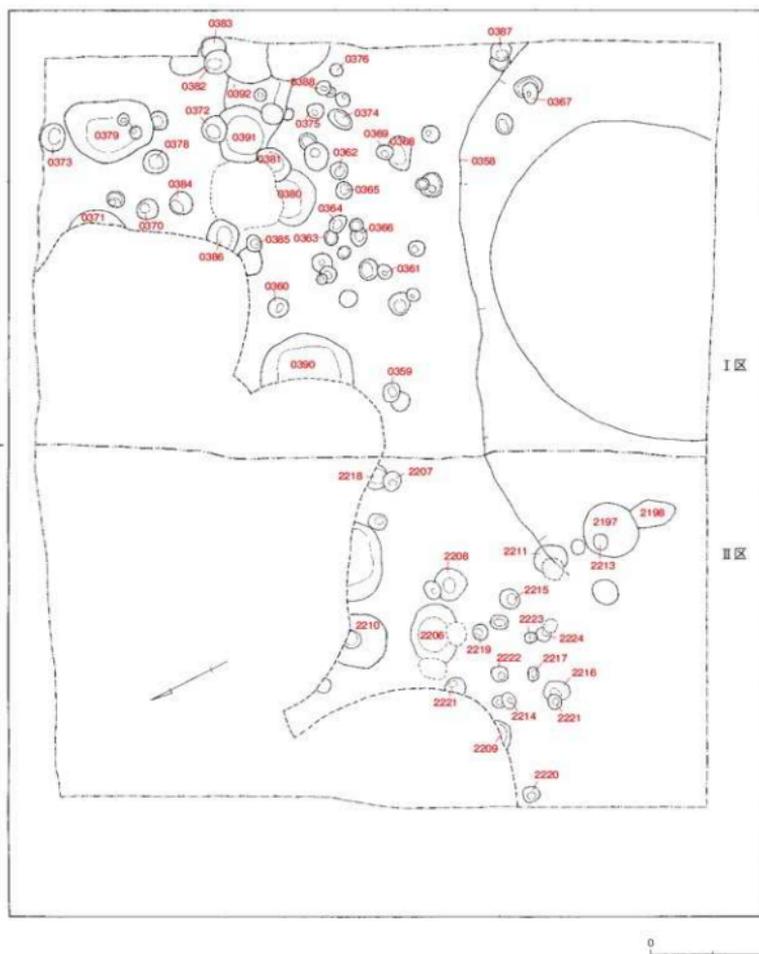
SE0226 (第11図 図版6-4) 第2面で検出した。現存南北3.4m、東西3.1mを測る。検出面から1.1m下に平坦面があり、中央に径1.5mの縦孔を深さ1.8m以上掘り下げている。井筒は木桶の



第7図 4面全体図(1/80)

痕跡が残る。湧水のため底面は確認できなかった。白磁碗や陶器大甕などが出土しているが、もっとも新しい遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類で13世紀と推定される。

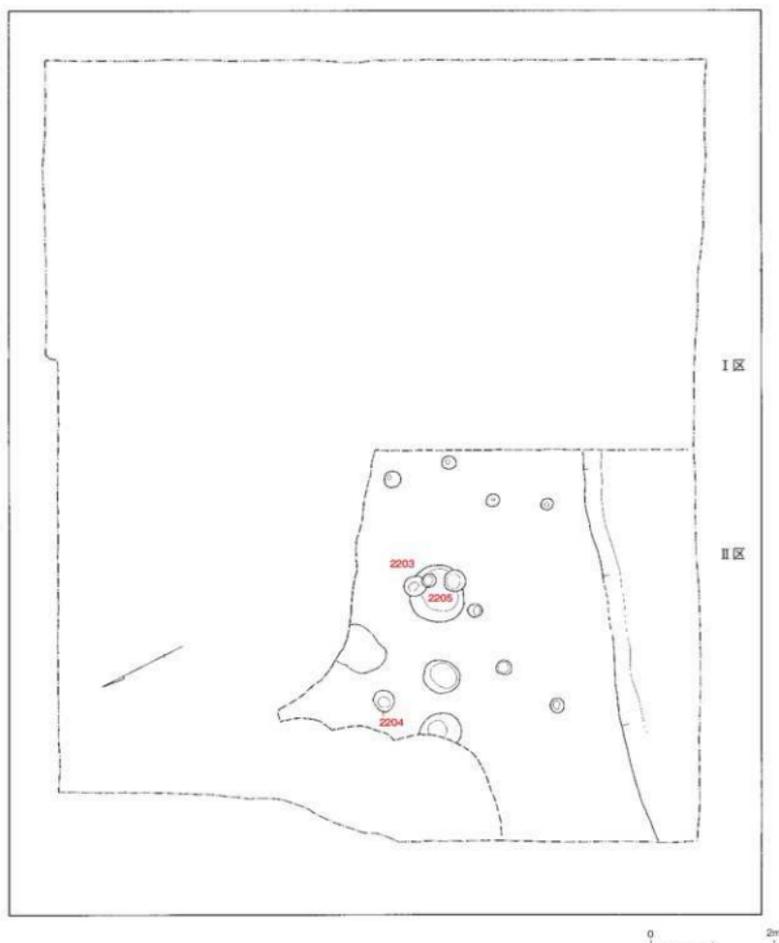
SE0336(第12図 図版6-5) 3面目で検出した。平面楕円形で2.3×2.0mを測り、検出面から2.8m掘り下げている。井筒は木桶の痕跡が残る。埋土は炭化物を多く含む灰色土で炉壁や土鍋などが出



第8図 5面全体図

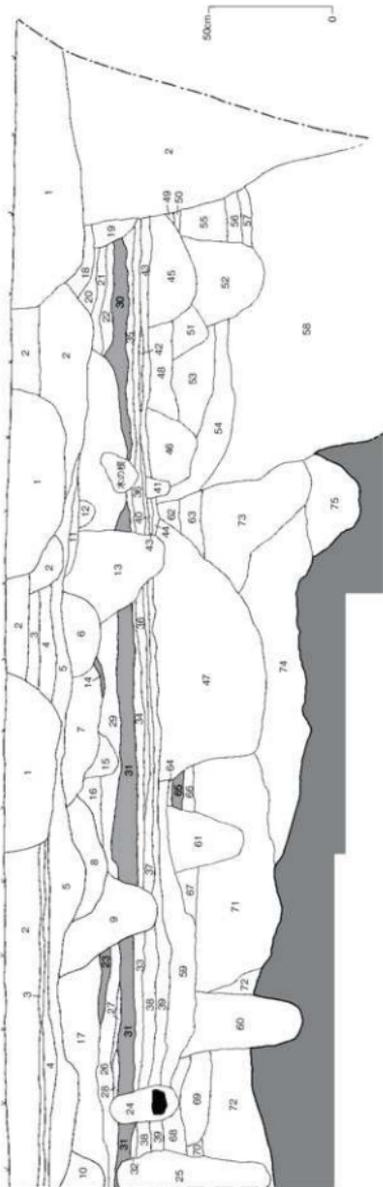
土した。13世紀頃と推定される。010・011は古代の須恵質瓦である。

SE2055 (第13図 図版6-2) 2面で検出したがSE0226との切り合いが明確になったのは第3面である。堀方は井筒2055、2096、2097の3基が切り合っていて不明瞭である。井筒は木桶の痕跡があり、径90cmを測る。木桶の底面標高は約0.3mで20cmほど上が湧水点である。出土遺物。012



第9図 6面全体図

は滑石製人形で高さ5.4cmを測る。烏帽子を被り目鼻眉を凹線で現す。013は土師皿で径7.8cm、高さ1.5cmを測る。底面は回転糸切りで板状圧痕はない。014は陶器甕で復元口径13cmを測る。釉は黄褐色で口縁に目跡がある。015は陶器甕で復元口径16.2cmを測る。鈍い黄褐色を呈す。016～018は陶器盤で釉は黄褐色を呈す。019・020は須恵質の鉢で、019は復元口径28.4cmを測る。遺物は13世

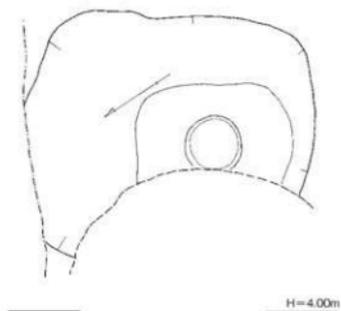


第10図 調査区東壁南側土層図 (1/20)

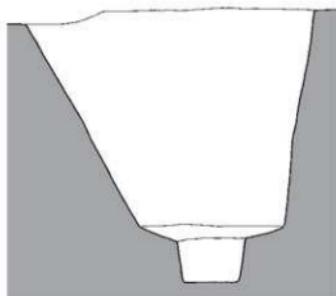
1. 現代混泥
2. 近代盛土
3. 近代盛土
4. 近代盛土
5. 近代盛土
6. 近代盛土
7. 近代盛土
8. 近代盛土
9. 近代盛土
10. 近代盛土
11. 近代盛土
12. 近代盛土
13. 近代盛土
14. 近代盛土
15. 近代盛土
16. 近代盛土
17. 近代盛土
18. 近代盛土
19. 近代盛土
20. 近代盛土
21. 近代盛土
22. 近代盛土
23. 近代盛土
24. 近代盛土
25. 近代盛土
26. 近代盛土
27. 近代盛土
28. 近代盛土
29. 近代盛土
30. 近代盛土
31. 近代盛土
32. 近代盛土
33. 近代盛土
34. 近代盛土
35. 近代盛土
36. 近代盛土
37. 近代盛土
38. 近代盛土
39. 近代盛土
40. 近代盛土
41. 近代盛土
42. 近代盛土
43. 近代盛土
44. 近代盛土
45. 近代盛土
46. 近代盛土
47. 近代盛土
48. 近代盛土
49. 近代盛土
50. 近代盛土
51. 近代盛土
52. 近代盛土
53. 近代盛土
54. 近代盛土
55. 近代盛土
56. 近代盛土
57. 近代盛土
58. 近代盛土
59. 近代盛土
60. 近代盛土
61. 近代盛土
62. 近代盛土
63. 近代盛土
64. 近代盛土
65. 近代盛土
66. 近代盛土
67. 近代盛土
68. 近代盛土
69. 近代盛土
70. 近代盛土
71. 近代盛土
72. 近代盛土
73. 近代盛土
74. 近代盛土
75. 近代盛土
76. 近代盛土
77. 近代盛土
78. 近代盛土
79. 近代盛土
80. 近代盛土

61. 近代盛土 近代盛土
62. 近代盛土 近代盛土
63. 近代盛土 近代盛土
64. 近代盛土 近代盛土
65. 近代盛土 近代盛土
66. 近代盛土 近代盛土
67. 近代盛土 近代盛土
68. 近代盛土 近代盛土
69. 近代盛土 近代盛土
70. 近代盛土 近代盛土
71. 近代盛土 近代盛土
72. 近代盛土 近代盛土
73. 近代盛土 近代盛土
74. 近代盛土 近代盛土
75. 近代盛土 近代盛土
76. 近代盛土 近代盛土
77. 近代盛土 近代盛土
78. 近代盛土 近代盛土
79. 近代盛土 近代盛土
80. 近代盛土 近代盛土

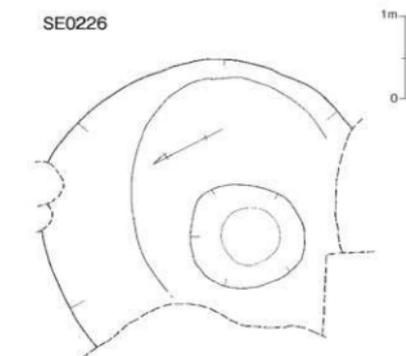
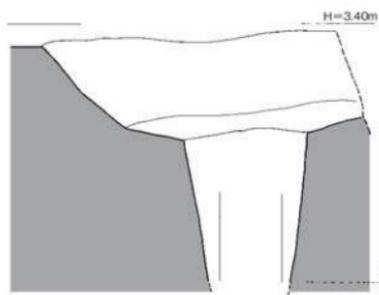
SE0225 (0168)



H=4.00m

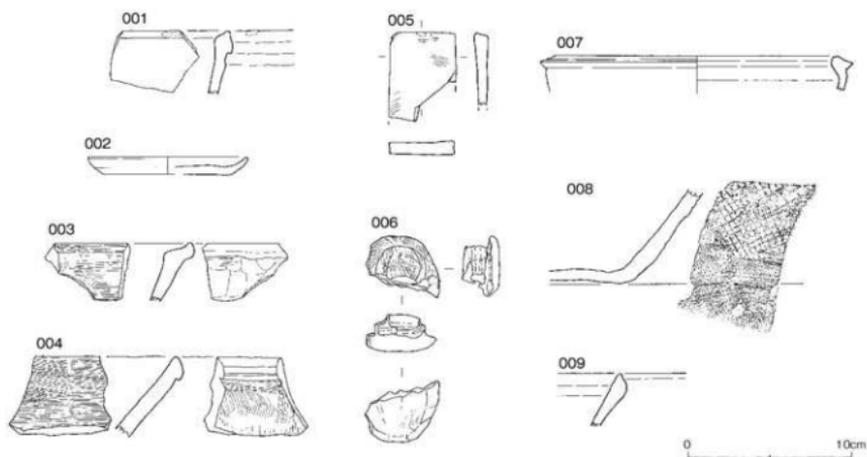


SE0226

1m
0

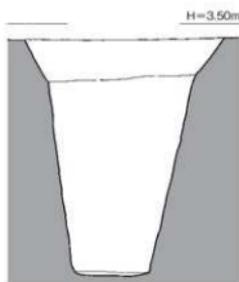
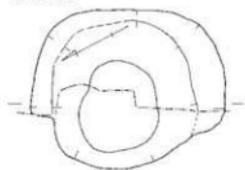
H=3.40m

排水点

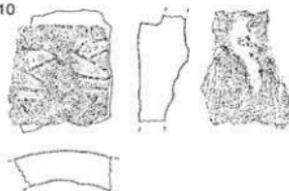


第 11 图 SE0225・0226 实测图 (1/60・1/3)

SE0336



010



011

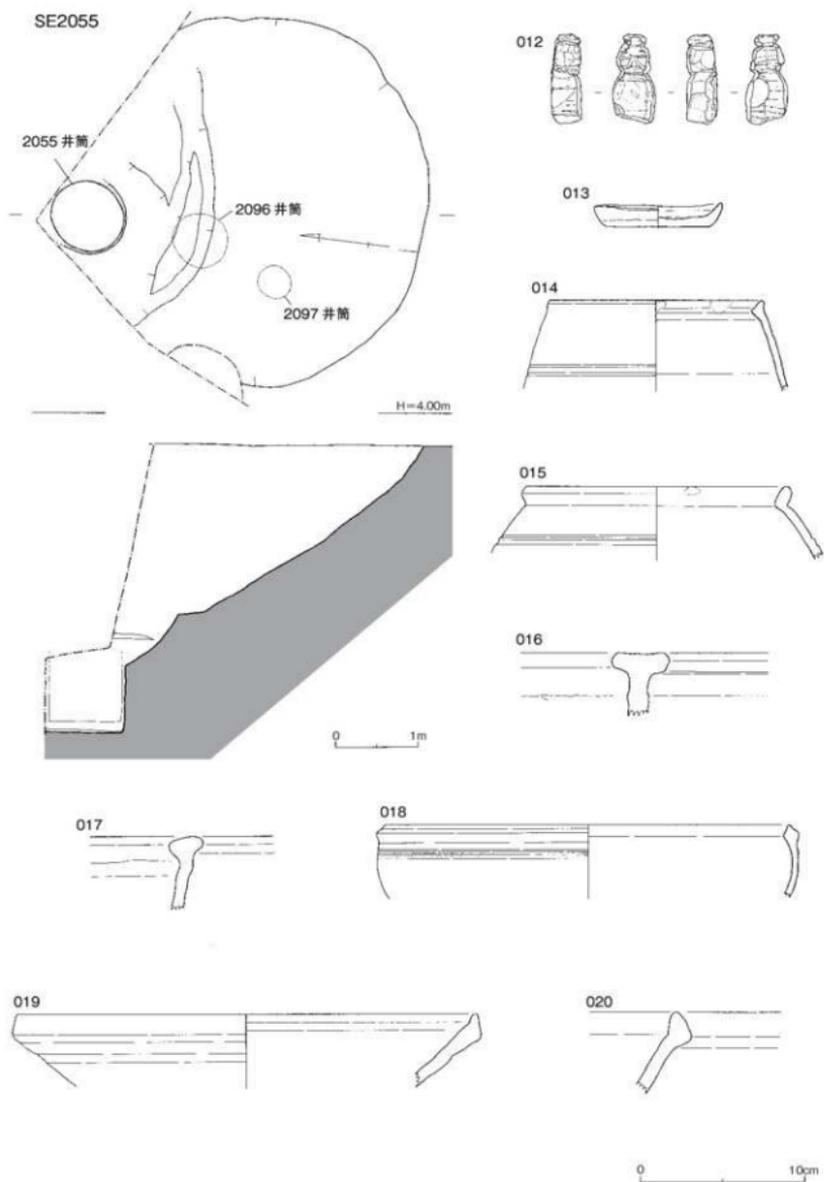


0 5m

第12図 SE0336実測図(1/60・1/3)

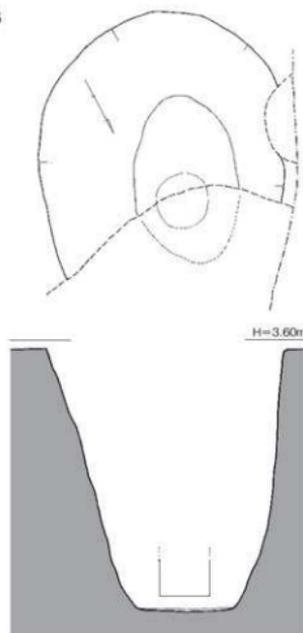
紀代の物が多かったが、瓦質埴鉢など14世紀代と思われる遺物が少量出土した。

SE2060・2056(第15図 図7-1) 第2面で検出した。井筒が2060、堀方が2056である。現状で東西4.0m、南北3.7mを測る。検出面から2m下に平坦面があり、中央に径90cmの縦孔を掘る。標高1.2mで湧水点に達し、隣家と接しているため安全のため掘り下げを中止した。井筒は木桶で径87cmを測る。井筒痕は検出面から確認でき、掘り下げ中に多くの大型陶器類が出土した。026は白磁皿Ⅸ類で径8.3cm、器高1.8cmを測る。027は土錘で長さ3.8cm、径1.1cmを測る。028～031は龍泉窯系青磁碗で029は見込みに「金玉満堂」の、030は草花文のスタンプを施す。032は白磁碗で小片数点からの推定復元である。器壁は薄く内面に型押しで草花文を施す。033・034は龍泉窯系の青磁坏、035は白磁の坏で口径12cmを測る。軸は薄い灰色で外面下半は露胎である。036は青磁東口碗で復元口径は9cmを測る。軸は明オリーブ色を呈し残存部分はすべて軸がかかる。037は合子蓋、038・039は合子である。040～045は陶器盤で046～049は壺である。046は白磁四耳壺で、軸は内外面全体にかかる。047は白磁壺の底部である。048は褐～黒褐色の軸で、口縁端に目跡がある。049は陶器壺で軸は灰オリーブ色を呈す。全体にかなり壺である。050～055は大型壺である。050～052は四耳壺で050は復元口径19.2cmで灰オリーブから黒褐色の軸を施す。取手断面は円形を051は復元口径14.6cmを測り。褐色軸を施す。053は最大胴径40cmを測る。肩部の稜線はシャープで軸は外面は黒色で光沢がある。肩と頸部の間に白色砂が付着しているのは目跡と思われる。外面は粘土帯の段がわずかに残る。内面は茶褐色の軸が薄くかかり肩部直情にはヘラの痕跡が残る。器壁は5.2mmと薄く胎土はやや粗めだが砂はわずかに含むのみである。055は外面暗褐色～黒軸で内面は薄い茶

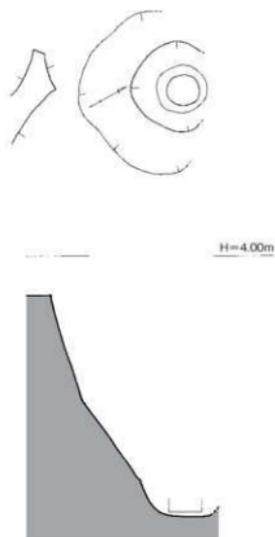


第 13 图 SE2055 实测图 (1/60 · 1/3)

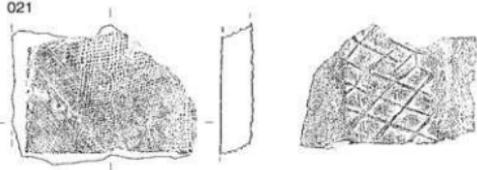
SE2096



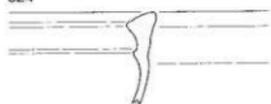
SE2097



021



024



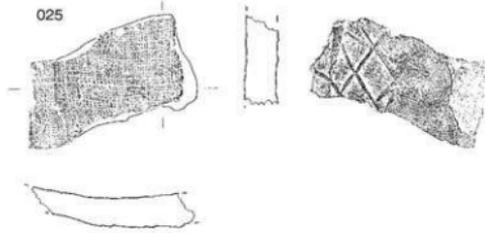
022



023



025



0 10cm

第14図 SE2096・2097実測図(1/60・1/3)

褐釉を施す。外底部は露胎で茶褐釉により線を施す。胎土が053に似ており同一個体の可能性がある。054は壺底部で復元底径13cm強を測る。胎土は灰～明褐色で白色砂を多く含む。外面は茶褐釉でキラキラとした光沢があり、内面は暗茶褐釉で底部には外面の茶褐釉が垂れている。058・059は大型の鉢で、058は光沢がない灰オリーブ色で、口縁下の窪みにヘラによる刻目と茶褐釉を施す。口縁上面は露胎で赤茶褐色を呈し内面は青海波紋のタタキ痕を施すが、口縁から11cm下までは丁寧にナゲ消している。059は暗緑色で軸・胎土ともに粗い。外面は横および斜め方向のタタキを施す。060・062は陶器盤である。063～068は常滑窯の陶器甕で13世紀後半である。063は外面肩部にスタンプを施す。064は外面肩部のハケ目の上から「S」字状のヘラ記号を施す。065から068はいずれも肩部にスタンプを施す。

SE2096 (第14図) SE2055を掘り下げ中に標高3.5m付近で検出した。堀方は径3m弱で北側を2055に切られる。井筒は痕跡のみだが木桶と思われ、径は62cmを測る。底面の標高は0.3mを測る。龍泉窯系青磁碗Ⅱ類や白磁皿Ⅹ類が出土しており13世紀後半～14世紀前半と推定される。

SE2097 (第14図) 同じくSE2055掘り下げ中に検出した。堀方北側を2096に切られる。井筒は曲物と思われ、径42cm、底面標高は0.8mを測る。021～023は堀方、024・025は井筒から出土した。

2) 掘立柱建物

SB01(第19図) 焼土ブロック整地層下の第3面で検出し、3×3間の建物として復元した。東西5.3m、南北3.5mを測る。0259・0308・0309の3基は柱痕に焼土ブロックが詰まっていたことから焼土ブロック整地層の基になった火災時に焼け落ちた建物の可能性がある。残りの柱穴は切り合いなどから柱痕跡は残っていなかった。時代の判る遺物は出土しなかったが、焼土ブロック整地層の下層であることから13世紀後半頃と推定される。

3) 土坑

SK0122(第20図 図版7-2-4) 第2面で検出して掘り下げ、その後第3面で掘り残しを確認した。堀方は径1.2×1.1cmの隅丸方形で、深さ108cmを測る。埋土は全体に薄いレンズ状の堆積で、埋土中からは礫が多数出土した。底面には中央に径50～65cmの掘り込み2基が並び、それを径20～30cmの小ピット12基が囲む。埋土から青白磁小碗片などが出土した。069～072は上層、073～075は下層で出土した。069～074は土師環・皿で糸切りである。075は鉄滓で長径13.1cmを測る。

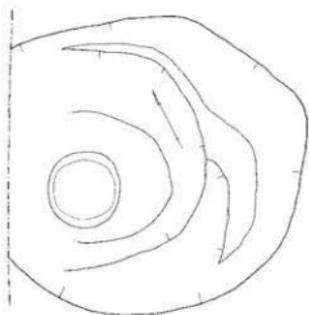
SK1074 (第22・23図 図版7-5-8) 第2面南東部に位置する。南北両側を攪乱に切れられ、現状で南北203cm、東西最大幅110cmを測る。南側攪乱に切られた断面で焼土ブロック層の存在が判ったため最初焼土層上面まで掘り下げた。焼土ブロック層は北側が削平を受けており、遺構北端まで延びるかは不明である。焼土ブロック層に張り付くように大型陶器の破片が出土した(図版7-6)。出土遺物は076～079は焼土ブロック層まで掘り下げる途中で出土した土師皿である。090-094は焼土ブロックに張り付いて出土した遺物で090は青磁輪花碗、094は常滑大甕片である。その他龍泉窯系青磁坏Ⅲ-4類等も出土している。焼土ブロック整地層の下層(第23図)は、北側は検出面からの深さ約25cmと浅い。南側の長方形掘り込みは南北172cm、東西108cm、深さ44cmを測る。080-089は焼土ブロック層から遺構底面の間で出土した。080は鉄刀で長さ28.9cmを測る。081は青磁碗片、082は黄褐陶器鉢、083は完形の白磁皿Ⅹ類、084は白磁合子、085は陶器盤で、鉄刀や完形の白磁皿の出土や、遺構の形状から土壇墓の可能性も考えられる。もし墓であれば焼土ブロック層が棺床であろうか。13世紀末～14世紀前半と推定される。

SE2060(2056)

026



027



028



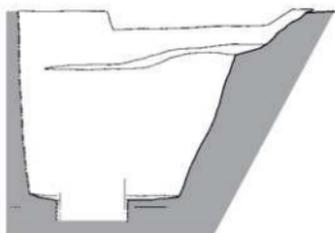
029



H=4.00m

1m
0

湧水点



036



032



037



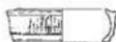
030



033



038



034



039



031

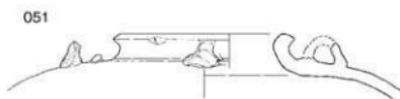
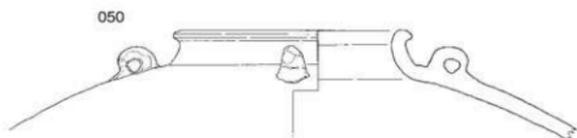
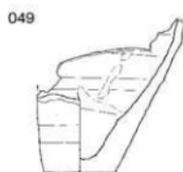
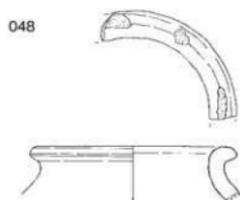
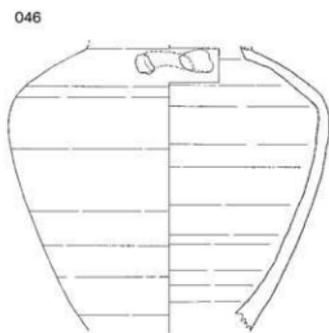
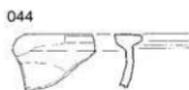
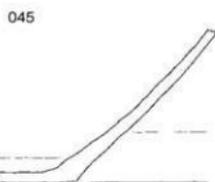
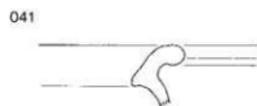


035

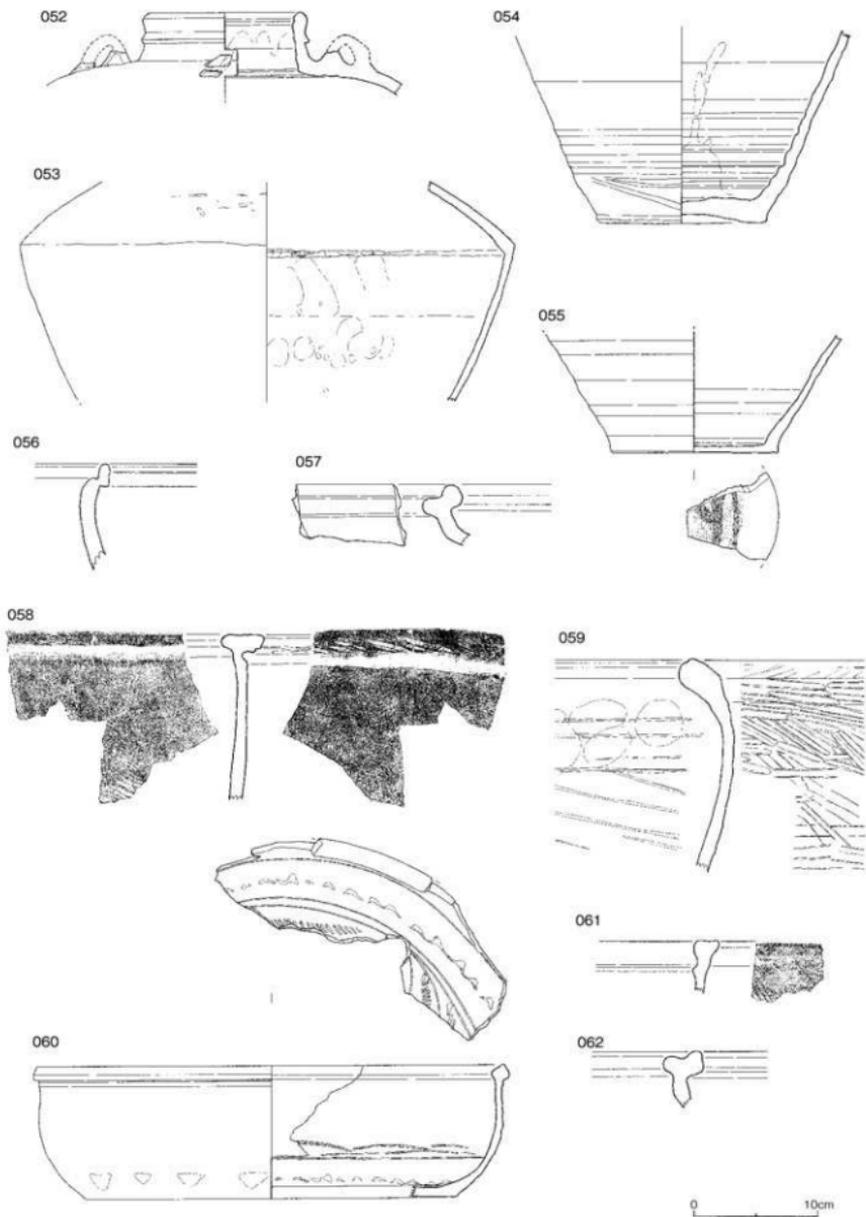


0 10cm

第 15 図 SE2060 実測図 1 (1/60・1/3)

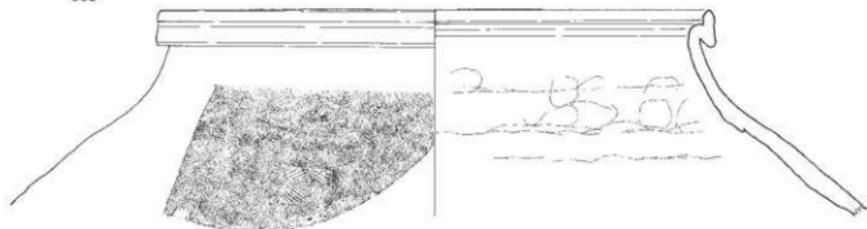


第16図 SE2060実測図2 (1/3、050・051は1/4)

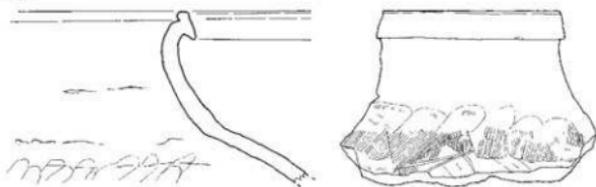


第17图 SE2060实测图3(1/4)

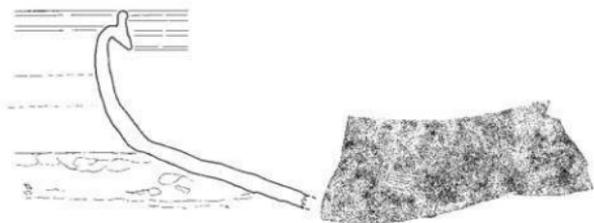
063



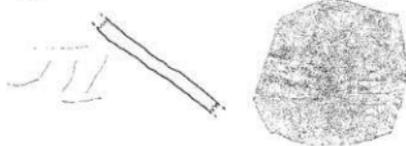
064



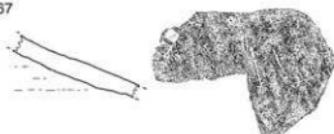
065



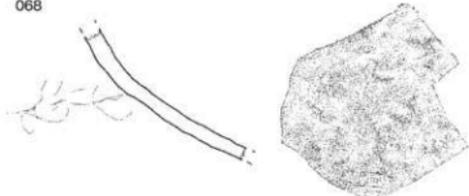
066



067

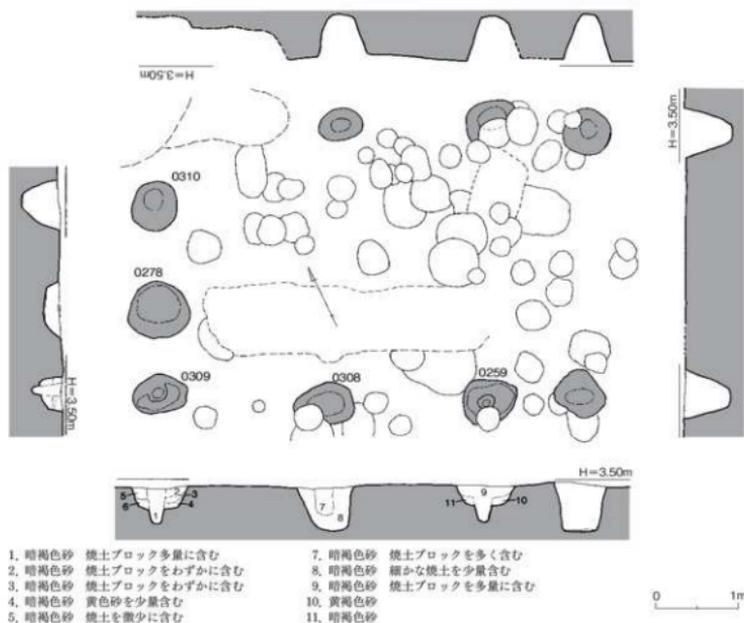


068



0 10cm

第18图 SE2060实测图4(1/4)



第19図 SBO1 実測図 (1/60)

SK0175 (第25図 図版8-5) 第2面I区中央に位置する。現状で南北41cm、東西70cm、深さ6cmを測る。南半部で土師環・皿の他に陶器大甍片などがまとまって出土した。095・096は土師皿で095は口径8.4cm、器高1.35cm、096は復元口径5.0cm、器高1.1cmを測る。096は外底部に煤が付着する。

SK2139 (第25図 図版8-8) 第4面II区南側に位置する。形状は不整形で現状で南北1.7m、東西1mを測る。底面から少し浮いて土師環・皿が出土した。

SK2054 (第26図 図版8-2) 第3面中央に位置する。現状で南北116cm、東西109cm、深さ39cmを測る。西側に三日月状の平坦面があり、その周辺で土師環・皿などが出土した。097は龍泉窯系青磁環で復元口径13.8cmを測る。098は陶器壺底部で軸はオリブ色を呈す。

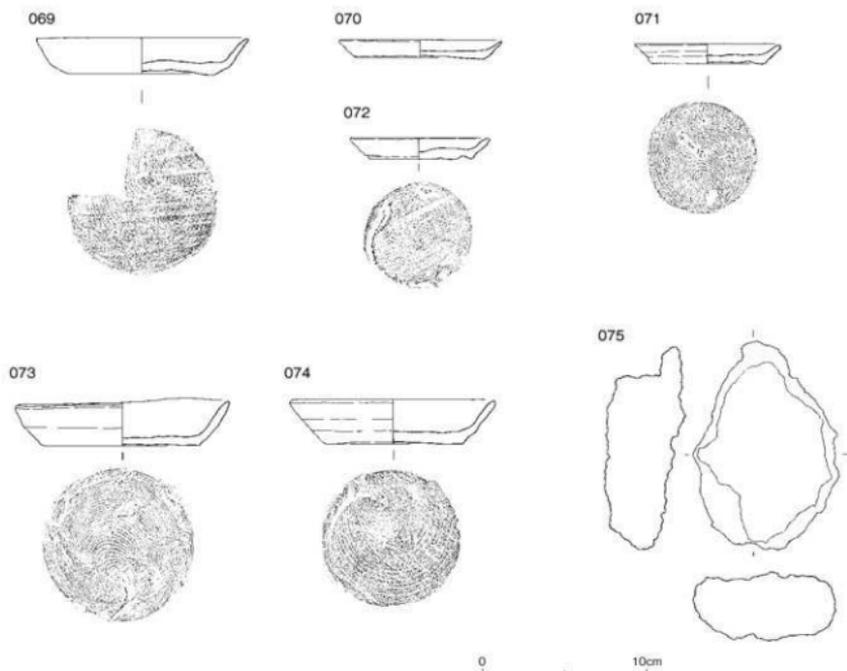
SK0066 (第26図 図版8-1) 第1面I区で検出した。径約50cm、深さ12cmを測り、底面から12cm上で完形の土師皿1枚が出土した。

SK0072 (第26図 図版8-2) 第1面I区で検出した。径33cm、深さ7cmを測る。中央の窪みから茶褐釉の陶器小壺が出土した。

SK0096 (第26図 図版8-3) 第1面I区で検出した。径50cm程の円形を呈し、深さ14cmを測る。099は完形の白磁皿X類で、その他に土師環小片などが出土した。13世紀後半か。

SK0156 (第26図 図版8-4) 第2面I区で検出した。0174を切る。東西69cm、深さ18cmを測る。埋土中から土師環・皿、銅銭が出土した。

SK2027 (第26図 図版8-6) 第2面南西側で検出した。南側を攪乱に切られる。径32cm、深さ



第 21 図 SK0122 出土遺物 (1/3)

13 cm を測る。東端底面で完形白磁皿が出土した他、陶器盤片、土師皿片なども出土した。

SK2033 (第 26 図 図版 8-7) 第 2 面南西隅で検出した。径 45 × 41 cm、深さ 15 cm を測る。102・103 が並んで出土した。102 は径 12.2 cm、器高 2.9 cm。103 口径 7.9 cm、器高 1.6 cm を測る。

SK0271 (第 26 図) 第 4 面Ⅰ区南側で検出した。東西に長い楕円形で長径 53 cm、深さ 29 cm を測る。埋土中から長さ cm の刀子が 1 点出土した。

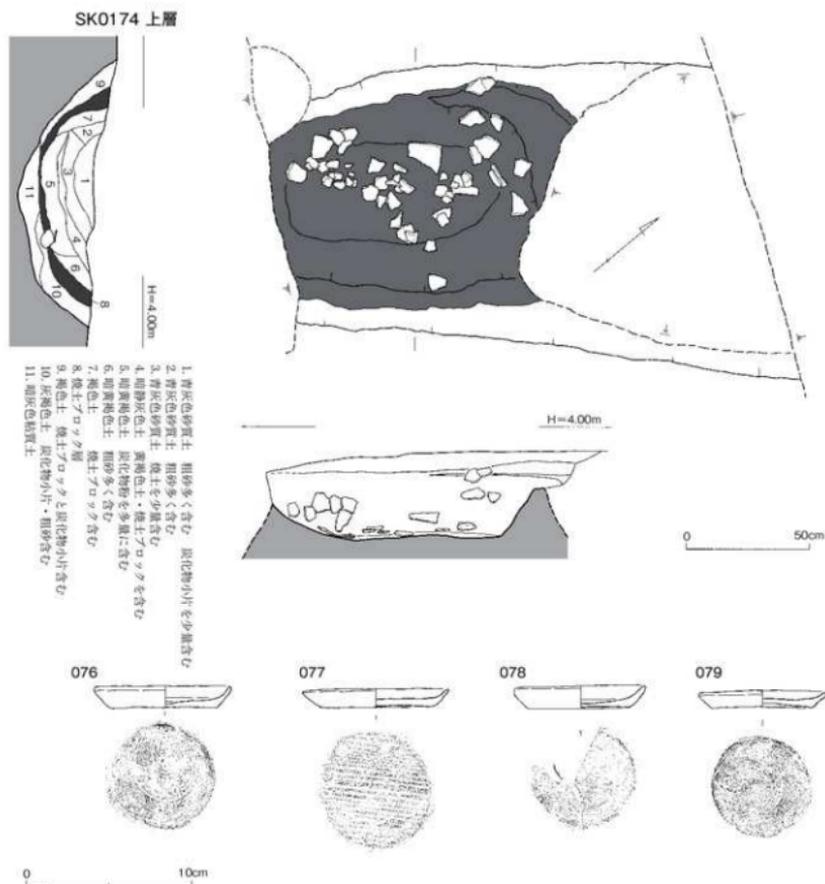
SK0278 (第 26 図 図版 9-1) 第 4 面Ⅰ区西端で検出した。径 72 cm、深さ 18 cm を測る。完形の土師皿が 1 枚が出土した。

SK0295 (第 26 図 図版 9-2) 第 4 面Ⅰ区中央で検出した。径 43 cm、深さ 12 cm を測る。100 は完形の土師皿で径 9.1 cm、高さ 1.5 cm を測る。内外面に煤が付着する。灯明皿か。

SK2173 (第 27 図 図版 9-3) 第 4 面Ⅱ区南東端で検出した。南側を SD2001 に切られる。土師環片が出土した。

SK2199 (第 27 図 図版 9-4) 第 4 面Ⅱ区南西端で検出した。南側を SD2001 に切られる。埋土中から龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁蓋、土師環数点(糸切り)、土師皿など多くの遺物が出土した。

SK2034 (第 28 図) 第 1 面Ⅱ区西端に位置する。径 98 × 90 cm の方形で 20~40 cm の隙を含む。104 は陶器盤である。その他に龍泉窯系青磁碗Ⅲ類や陶器壺・甕などの遺物が出土した。13 世紀中~14 世紀と考えられる。



第22図 SK0174上層実測図(1/20・1/3)

SK2154 (第28図) 第4面Ⅱ区東端に位置する。Ⅰ区との境に位置するがⅠ区では検出できなかった。径123cm、深さ102cmを測り、埋土は水平方向のスジが多く入る。同安窯系青磁碗や石鍋片など12世紀を主とするが、105のような古代須恵器瓦片も出土している。

SK2205 (第28図) 第6面Ⅱ区に位置し長径105cm、深さ19cmを測る。

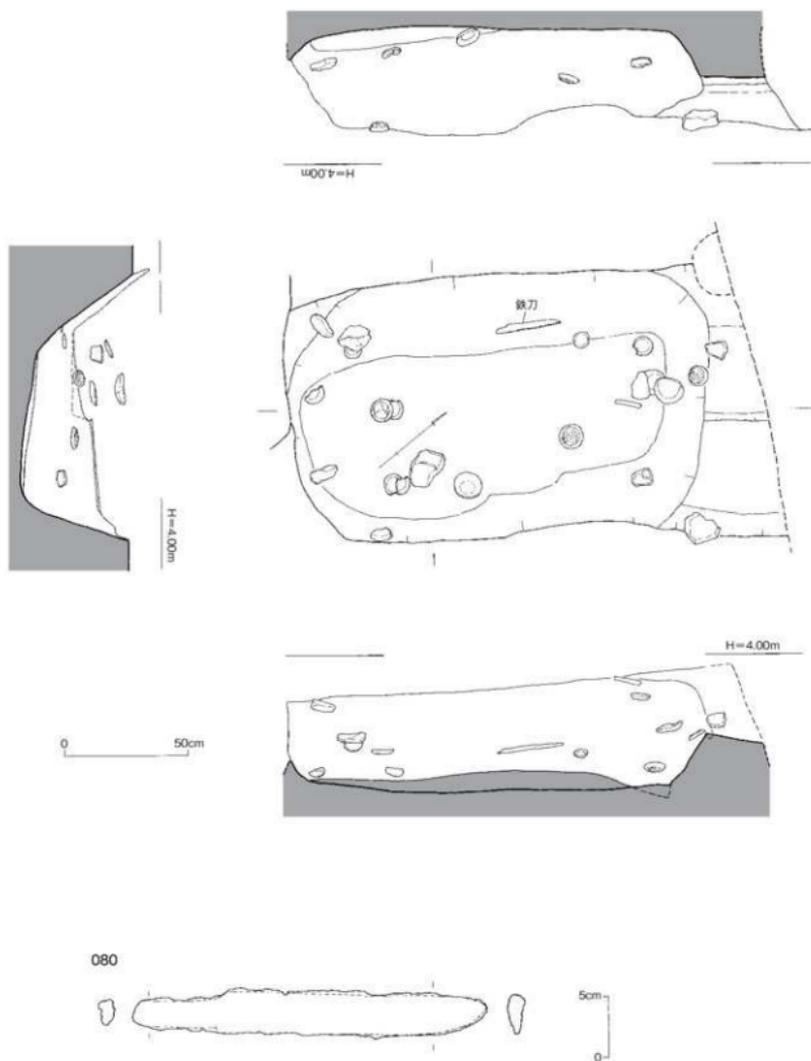
SK2206 (第28図) 第6面Ⅱ区に位置し長径約1m、深さ15cmを測る。

SK2197 (第28図) 第5面Ⅱ区に位置し径93cm、深さ72cmを測る。

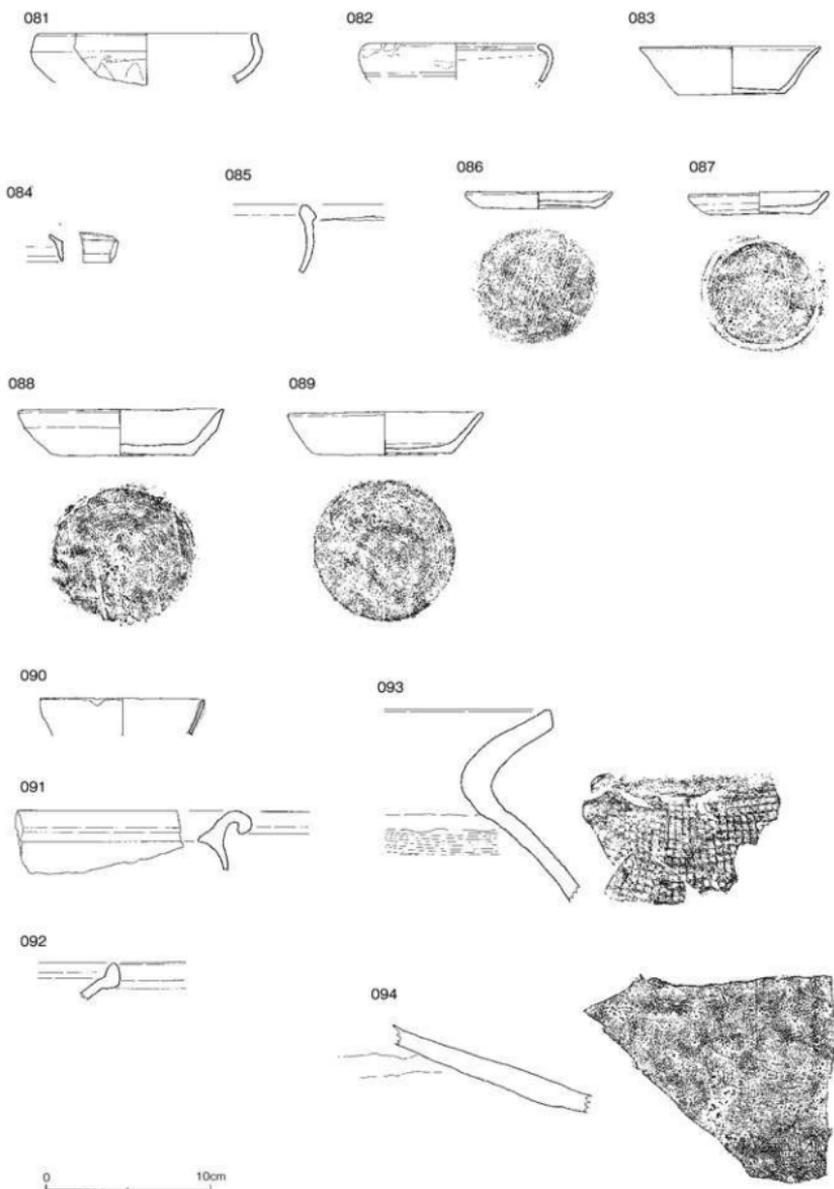
SK0100 (第29図) 第1面Ⅰ区に位置し長径約3m、深さ42cmを測る。底面はほぼ平らである。龍泉窯系青磁碗Ⅲ類や須恵器甕の他陶器類は壺、盤、甕など種類が多い。14世紀と考えられる。

SK0163 (第29図) 第2面Ⅰ区に位置する。長径2.5m、深さ28cmを測る。冷櫃は西側がやや低い。

SK0174 下層



第23図 SK0174下層実測図(1/20・1/4)



第 24 図 SK0174 出土遺物 (1/3)

101は土師質捏鉢で推定口径は30cm弱である。14世紀代か。その他に龍泉窯系青磁碗Ⅰ類や白磁碗、土師環・皿など12～13世紀の遺物が多く出土した。

SK2163 (第29図) 第4面Ⅱ区に位置する。南側を2001に切られ深さ65cmを測る。

SK0379 (第29図) 第5面Ⅰ区に位置する。長径143cm、深さ35cmを測る。白磁碗Ⅳ類の他土師環・皿の小片が多く出土した。糸切りが多くヘラ切りが混じる。11世紀後半か。

SK0350 (第30図) 第4面Ⅰ区南端に位置し南側は調査区外に延びる。東西2.7m、深さ63cmを測る。柱穴などはない。106は白磁皿で口径9.7cmを測る。その他に白磁碗、陶器大甕、瓦器碗、土師環・皿が出土し12世紀後半と推定される。

SK0380 (第30図) 第5面Ⅰ区に位置し長径89cm、深さ37cmを測る。白磁碗Ⅴ類や須恵器大甕、土師環・皿(糸切り)などが出土した。12世紀前半か。

SK0390 (第30図) 第5面Ⅰ区に位置し長径1.5m、深さ53cmを測る。須恵質環(糸切り)、瓦質捏鉢、土鍋などが出土した11世紀後半～12世紀前半と推定される。

SK0391・0392 (第30図) 第5面Ⅰ区に位置する。西端が深くっており深さ80cmを測る。須恵質大甕、黒色土器A類、土師碗、須恵質平瓦などが出土した。11世紀後半と推定される。

SK0162 (第31図) 第2面Ⅰ区北西端に位置する。径1.1m程の土坑下半に径10cm前後の礫が隙間無く詰まる。陶器小盤Ⅱ類、須恵質捏鉢、土鍋、炉壁などが出土し13世紀以降と推定される。

SK2035 (第31図) 第2面Ⅱ区に位置する。径80cm程の土坑中央で7-25cmの礫が出土。礎石の基礎か。107の石白片の他に龍泉窯系青磁碗Ⅲ類、陶器大甕、瓦質捏鉢が出土。13-14世紀と推定される。

SK2057 (第31図) 第2面Ⅱ区北東隅に位置する。堀方は不明。下半は径5-20cmの礫が詰まっており、その上に径30cm強の方形の礎石が乗る。13世紀と推定される。

SK2058 (第31図) 第2面Ⅱ区北西隅に位置する。長径1.5m以上、深さ65cmの土坑底面に径15-25cmの礫を2段積み重ねた石室の残骸である。13C後半～14世紀で龍泉窯系青磁碗などが出土した。

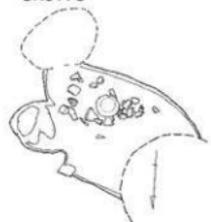
4) 溝

SD2001 (第32図 図版10-4) 調査区南端に位置し、南側の立ち上がりは調査区外で不明だが、溝の可能性が高いと思われる。12世紀頃から近世まで何度も掘り返されているが、理由は不明である。流水、滞水の痕跡は見られない。108-113は上層で出土した。108は砂石製の容器底部で復元底径は15.4cmを測る。外面には工具の粗い削り痕が残る。内側はすべて破面で容器であったかは不明である。109-112は素焼きの土製品で119は人形の胴部、110は不明、111は外輪式蒸気船、112は土倉、113は土鍾で長さ4.1cm、最大径1.5cmを測る。

2001下層A (第33図) 西端から2.2m東側の底面部分で土器がまとまって出土した。114-117は土師皿で径と器高は114が9.8cm・1.1cm、115が9.6cm・1.2cm、116が9.8cm・1.0cm、117が8.4cm・1.1cmを測る。いずれも回転糸切りで116以外は板状圧痕を施す。他に陶器小碗、瓦質平瓦などが出土しており12世紀頃と推定される。

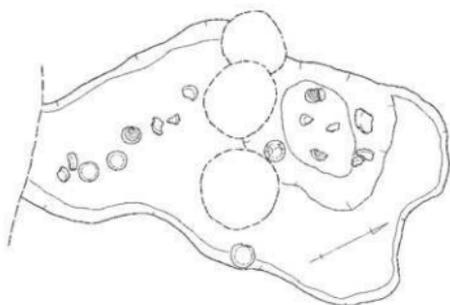
2001下層B (図版10-5) 下層Aから1.5m東で土師環・皿がまとまって出土した。118は同安窯系青磁碗、119・120は土師環で119は復元口径16cm、器高3, 3cm、回転糸切りで板状圧痕を施す。120は口径16cm、器高3.1cm、外底部はヘラ切りでナデを施す。121-124は土師皿でその他龍泉窯系青磁碗Ⅰ類、白磁皿Ⅲ類、天目碗小片、多種の陶器類、須恵器大甕、瓦質土器、炉壁などが出土した。13～14世紀頃と推定される。

SK0175



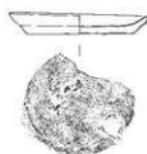
0 50cm

SK2139



H=4.00m

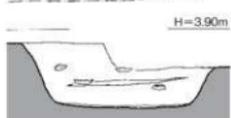
095



096



SK2054



H=3.90m

097



098

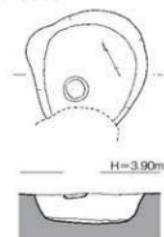


0 50cm

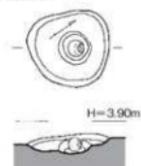
0 5cm

第25図 土坑1 (1/20・SK2054は1/30・1/3)

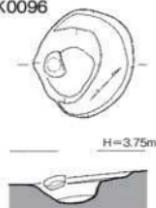
SK0066



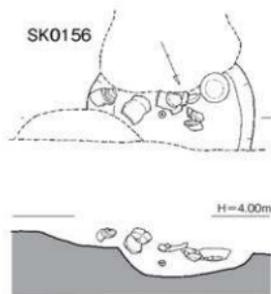
SK0072



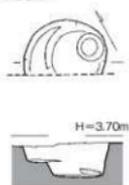
SK0096



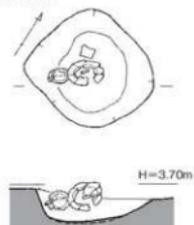
SK0156



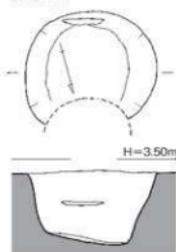
SK2027



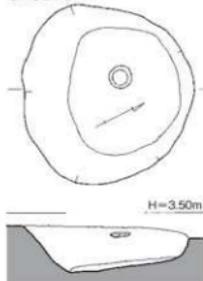
SK2053



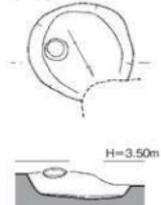
SK0271



SK0278

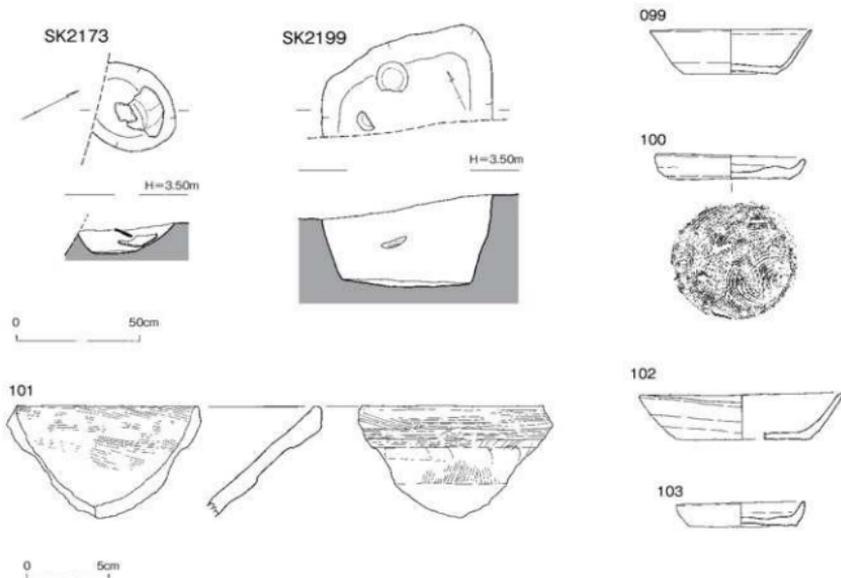


SK0295



0 50cm

第26图 土坑2 (1/20)

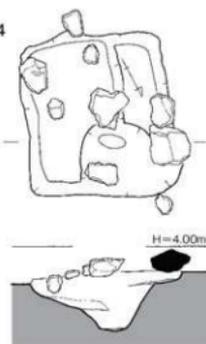


第27図 土坑3 (1/20・1/3)

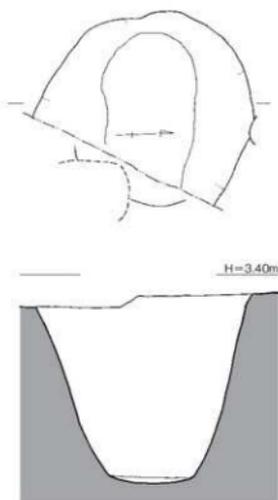
小結

今回の調査では焼土ブロックによる整地層を2面とその上下で厚さ1~10cmの整地層と思われる数層の堆積層を確認した(図版11・12)。上層の焼土ブロック整地層は削平のため部分的にしか遺存しておらず広まりを追うことはできなかったが、調査区西壁土層では近世盛土層の下に位置しており、中世末頃と考えられる。下層の焼土ブロック整地層は南東側で良く遺存しており、厚さ10cm強を測る。砂丘が南側に傾斜しているため北側では薄く、西側は井戸の切り合いでほとんど遺存していない。焼土ブロックの由来は①火災と②製鉄等による産業廃棄物の可能性が考えられる。まず②については鉄滓が複数遺構や整地層から出土しているが、その量は微少であることや焼土ブロックを炉壁片と考えると滓が付着したものがいないため可能性は低い。ただSK1074で焼土ブロックを人為的に敷くなど焼土塊にたいする扱いを考えると他の火や炉を使用する生産行為由来のものである可能性もある。①の可能性は焼土ブロック層を除去すると白色粘質土を主とする整地層の上面が顔を出す(1区3面 図版11-2)。そこで検出したSB01(第19図)の柱穴やその他いくつかの柱穴では柱痕跡の中に焼土ブロックが入り込んだものやいくつか見られた(図版10-1)。これは火災後燃え残った柱を抜いた後に焼土ブロックが流入したものと思われるため、火災の可能性は高いと考えている。下層焼土ブロック層の時期は層の上下で出土した遺物から13世紀後半頃と考えられる。

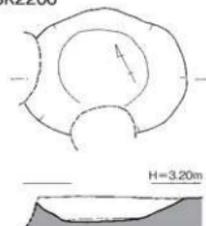
SK2034



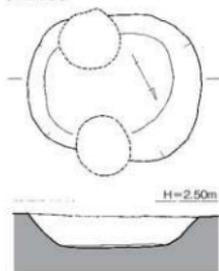
SK2154



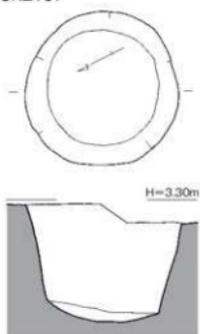
SK2206



SK2205



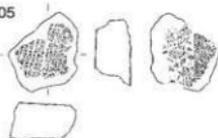
SK2197



104

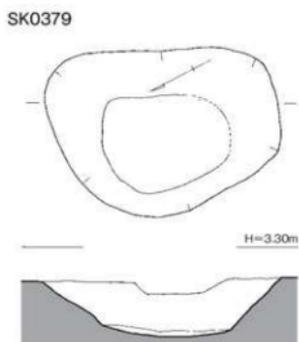
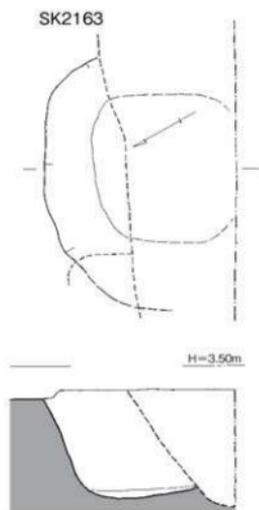
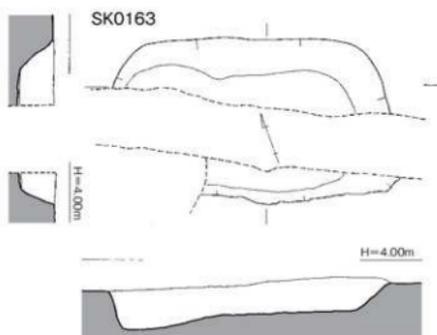
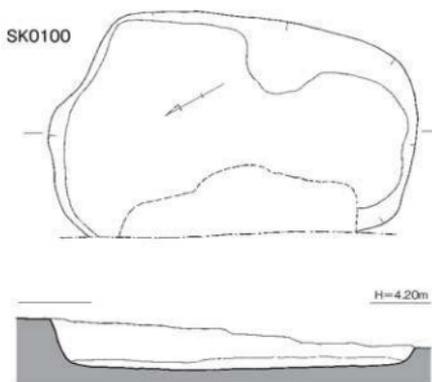


105



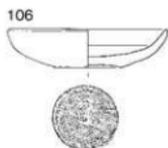
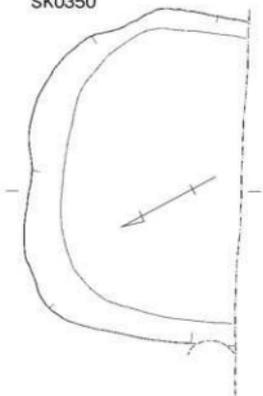
0 1m

第28図 土坑4 (1/30・1/3)

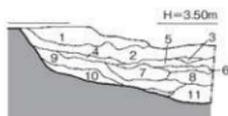
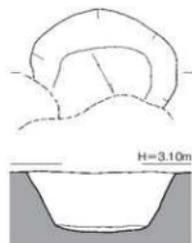


第 29 図 土坑 5 (1/30・SK0100 は 1/40)

SK0350

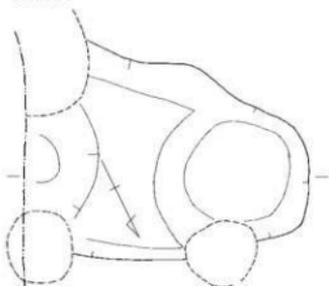


SK0380

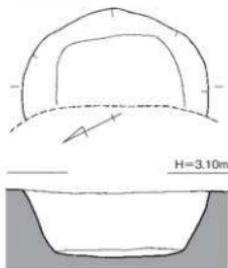


1. 暗灰褐色土 炭化物小片多く含む
2. 暗灰褐色土 炭化物小片・白色粘土ブロック(1~2mm)少量含む
3. 暗黄褐色砂
4. 茶褐色砂質土
5. 暗褐色砂質土
6. 暗~黒褐色砂質土
7. 暗褐色砂質土 白色粘土ブロック多く含む
8. 黒褐色土 炭化物小片多く含む
9. 暗黄褐色砂質土 炭化物小片含む
10. 暗褐色砂
11. 黒褐色砂質土

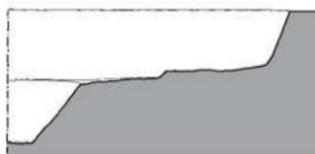
SK0391



SK0390



H=3.10m

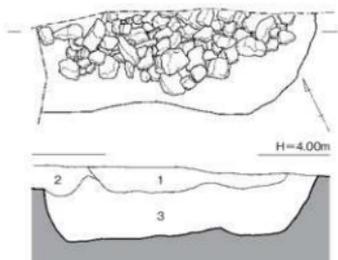


0 10cm

0 10cm

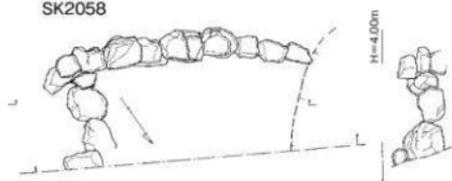
第30図 土坑6 (1/30・SK0390は1/40・1/3)

SK0162

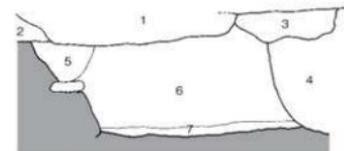


1. 暗褐色土 炭化物・焼土ブロック多く含む 別遺構
2. 暗褐色土 別遺構
3. 礫層 礫の隙間は黄色粘土が詰まる

SK2058



H=4.60m



1. 現代盛土
2. 暗褐色土
3. 暗褐色土 近代～現代
4. 明褐色土 白色粘土ブロック(5～10mm)を多量に含む 炭化物小片多く含む
5. 明褐色土
6. 褐色土 白色砂多く含む 炭化物小片多 焼土ブロック少
7. 暗灰褐色土 白色粘土(5mm以下)と炭化物小片を多量に含む

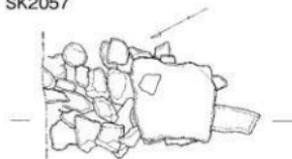
SK2035



H=4.10m



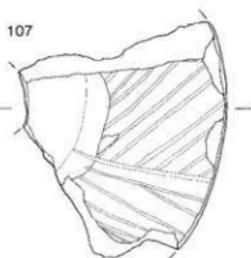
SK2057



H=4.10m



0 50cm



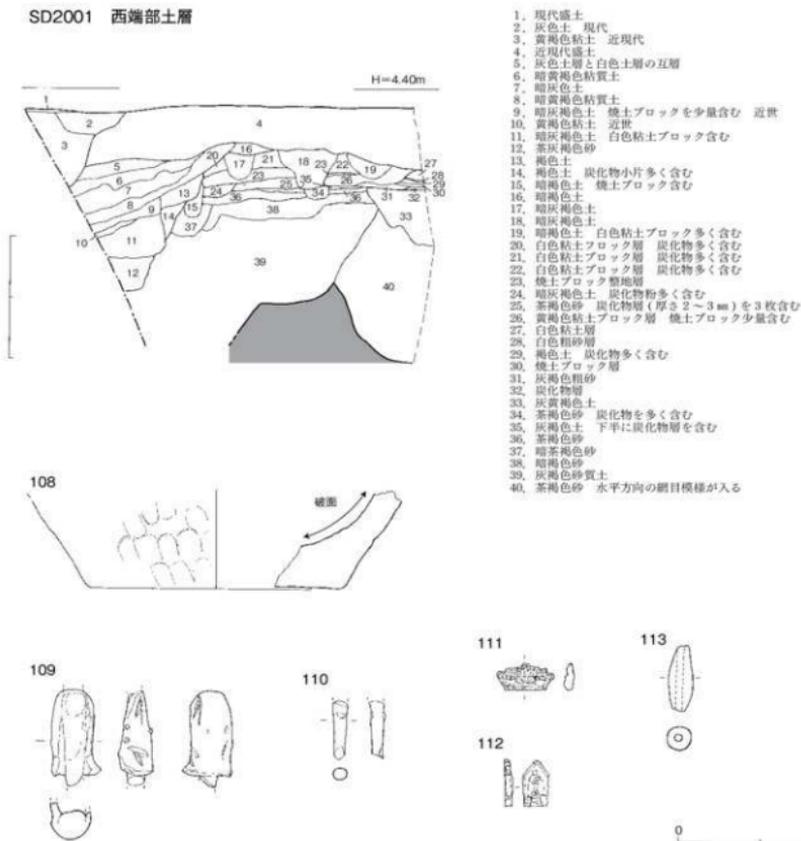
10cm



0

第31図 土坑7 (1/30・SK2057は1/20・1/3)

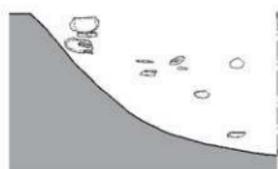
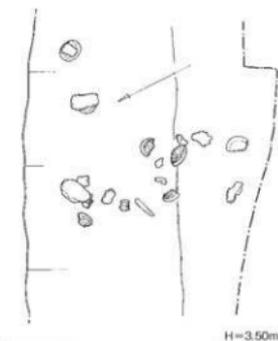
SD2001 西端部土層



第 32 図 SD2001 実測図 1

遺構番号	特徴	時代	遺物	備考
0002	土坑	13 後半 ~ 14C	白磁焼(1)線部小片、陶器片(胴部小片)、須恵質鉢(13C 後半 ~ 14C)、土師質磁鉢(少々 < 5 ~ 6 3 個体)、土師杯(小片多 糸)、土師皿(小片多 糸)、土師瓦(小片 多)、土師瓦(小片 多)、土師瓦(小片 多)	
0018	粘土貼付け土坑		青磁小碗(底部小片)、瓦質磁鉢、瓦質碗(高台部小片)、土師杯・皿(小片 糸)、壺(古墳?)、土師瓦(瓦質磁鉢小片)	いざれも小片
0066	PT 状遺構		須恵系青磁焼 1 類(底部小片)、陶器大甕(不明)、陶器器、須恵質片(鉢?)、土師片(底部小片 糸)、土師皿(小片 糸)、土師(現代)	
0072	土坑		須恵磁片、瓦質片(瓦?)、土師磁片(壺? 器表に煤付跡)、土師杯(小片 糸)、土師瓦(小片 糸)	
0096	土坑	13 世紀後半	白磁皿残片、土師杯(底部小片 糸)	
0100	土坑	14 世紀前半	須恵系青磁焼 1・II・III (14C 前)、白磁焼片、陶器片(小片 不明)、陶器片(底部片 2 点 別個体・中片・壺脚と大型灰皿?)、陶器器? (胴部小片 器柄部)、陶器片(小片 12C 前)、須恵系磁(小片)、須恵質鉢(小片 不明)、須恵系甕(胴部片、粘土)、瓦質片 1 鉢(注1:胴部片 5 点別個体)、土師杯(糸)、土師皿(糸)、土師瓦甕(胴部片 煤付跡)、須恵系平瓦(縄目・ナツ)、瓦質平瓦(小片)、滑石片(右側端加工品か)、鉄釘? (6 点)、焼けた粘土片	
0122	土坑	13 世紀	須恵系青磁焼 1・II 類(小片)、白磁焼 7 片、青白磁焼 2 片(高台部小片)、陶器片(壺・甕等の小片 糸 2 点)、須恵系甕(小片灰色)、土師杯(糸)、土師皿(糸)、土師碗?、土師瓦	
0122 下層	土坑	13 世紀	須恵系青磁焼 1 類、白磁片、土師杯(糸)、土師皿(糸)	
0143	土坑		須恵系青磁焼 1 類(底部片)・II 類(底部小片)、白磁焼片、陶器片(大甕片? 2)、瓦質鉢 7、土師質磁鉢(12C 前半?)、土師皿(糸)	
0168 (0225-0224)	井戸	14 世紀前半	須恵系青磁焼 1・II 類、須恵系青磁小碗 1 個、白磁焼(底部片)、白磁輪花甕、白磁皿片・灰皿、陶器大甕(前面 0 面あり)、陶器器 1 類(少々 < 5 個体で 1 点ずつ 12C 後半)、陶器小甕 2 類(13C 前)、陶器鉢 1 類(13C 前)、陶器鉢(不明)、須恵系陶器 1 鉢、須恵系甕(小片 粘土多 糸)、瓦質磁鉢(壺脚系物)、瓦質片 1 鉢(小片 3 点)、土師(12 後 ~ 13C)、土師杯・皿(磁片多 糸) 土師皿(12C)、土師瓦瓦?、滑石石磁片、滑石・タフ石多量、引土(小片)	陶器片 多いが 1 鉢 などはほとんどなし
0174	土坑(土師墓?)	14 世紀	須恵系青磁焼(陶器大甕・所遺跡、中層遺跡、14C)、白磁皿、須恵系大甕、陶器大甕(胴部小片)、陶器大甕片(5 点 すべて別個体 1 点は常滑か?)、陶器器片、陶器器、須恵系甕(小片)、土師杯・皿(糸 小片多)、土師片、滑石磁石磁片、土師質平瓦(小片)	SE2060 と同じ 壺? が数点ある。

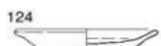
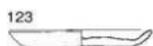
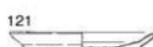
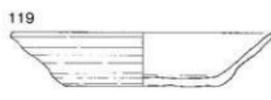
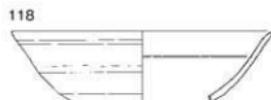
SD2001 下層 A



下層 A 出土遺物



下層 B 出土遺物



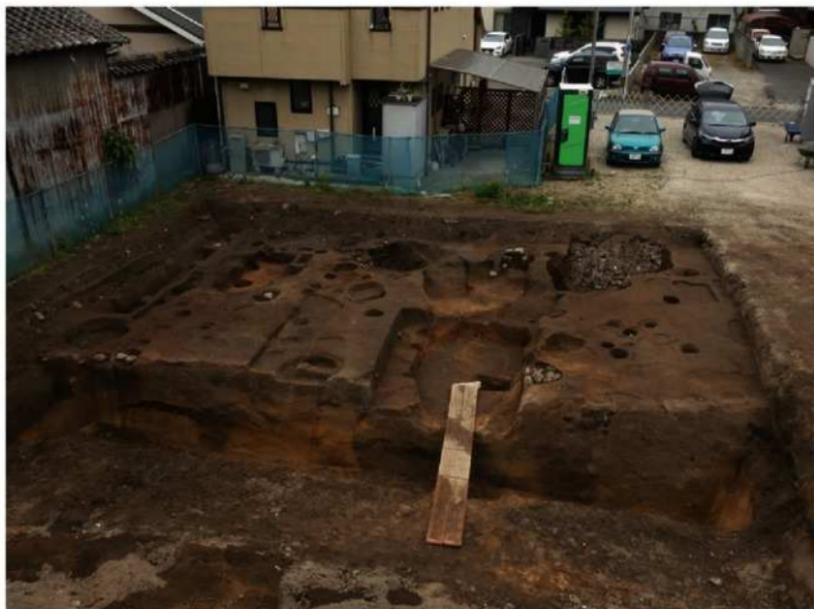
第 33 図 SD2001 実測図 2

遺物番号	特徴	時代	遺物	備考
0174 底面張り付 き	土坑 (土壘墓?)	14 世紀	鏡原系青磁碗 1 個、鏡原系青磁小碗 (輪花柄口縁部小片)、鏡原系青磁杯 4 (13C 中～14C 前)、白磁皿 1 個、陶器盤 (底部片)、陶器盤 (1 縁 1 2 a b 12C 前・1 1 a 13C 後)、黒釉陶器大甕 (黒部小片)、何知陶器大甕 (底部片)、常滑大甕片 (黒部)、須恵實控鉢 (13C 後)、須恵實大甕 (口縁部、釉部片多、釉部片結合文字)、土師焼 (小片)、滑石丸磁片	
0174 瓶土 壁中	土坑 (土壘墓?)	14 世紀	白磁皿 1 個 (口縁部小片)、黒釉陶器小片、土師焼・皿 (糸)	
0174 瓶方	土坑 (土壘墓?)	14 世紀	鏡原系青磁碗 1 個、白磁碗片、白磁皿 1 個 (安形 1 表の口縁部小片)、白磁小皿、陶器盤 (口縁部小片)、陶器小鉢 2、黒磁耳壺 (底部小片)、陶器蓋 (製部小片)、陶器水注 (口縁部のみ)、須恵實大甕 (製部小片 5 点 別個体)、瓦実控鉢 (12C 7)、土師焼・皿 (糸 小片多 土師焼 10 点以上、土師焼 30～30 点くらい)、砂埴片、鉄片、炭化物小片	土師焼は特に質が良く、幾つかのみが大きなものがある
0174・0180		14 世紀	鏡原系青磁碗 1 個・蓋 (13 中～14 初)、鏡原系青磁皿 (双魚文)、白磁皿 1 個、陶器大甕小片、陶器皿、土師焼・皿 (糸 小片多)	
0175			陶器片 (壺中大甕の製部片)、土師焼 (高台部のみ)、土師焼・皿 (糸 調整など輪)	
0225	井戸		白磁碗 V 類?、陶器盤 (底部片 12C)、陶器大甕 (小片 1 点)	
0225 土層	井戸		陶器盤 (小片 3 点 別個体)、須恵實控鉢、土師焼 (底部片)、土師焼 (糸)、須恵實土甕 (文字)	
0225 井筒	井戸		白磁碗片、陶器鉢 (口縁部小片)、陶器控鉢 2、陶器片、瓦器類 (底部片)、瓦実土甕片、土師焼・皿 (小片 糸)	
0225 瓶方	井戸		白磁碗 1 個、陶器蓋 (底部片)、陶器盤 1 個 (12C 前)、須恵實控鉢 (底部片)、須恵實控鉢 (12C 後)、土師焼・皿 (糸 小片)、土師焼	
0226	井戸	13C	鏡原系青磁碗 1 個 (13C)、白磁碗片 1 個、陶器盤 1 2 b (口縁部小片 12C 前)、陶器片 (壺中大甕の製部片)、土師焼 (高台部のみ)、土師焼・皿 (糸 小片多)	
0226 瓶方	井戸	13C	土師焼小片	
0271	土坑	中世	鏡原系青磁碗 1 個 (底部片)、土師焼、土師焼・皿 (糸)、刀子	
0295	土坑	中世	土師焼 (糸 底部片 1 点)、土師焼 (糸 安形 1 点 小片 1 点)	
0336	井戸	中世	白磁碗片、土師焼 7 (口縁部小片)、土師焼・皿 (小片)、砂埴小片	

遺構番号	名称	時代	遺物	備考
0050	土坑	12世紀後半	白磁碗片、白磁加蓋碗(13C後)、陶器大甕(底部片)、刺器小片、黒色土器多層椀(底部片11C?)、土師杯・皿(小片 赤)、須恵磁片(甕?)、滑石片、瓦器片(11~12C)、土師碗(小片)、土師皿(小片 赤・黒・多・ヘラ?)	
0050-ベト	土坑	13世紀	白磁碗小片、陶器耳取内輪(13C)、陶器大甕(刺器片)、須恵瓦葺鉢(11C中頃)、瓦器碗片、土師碗(刺器片 外縁に欠)、土師杯・皿(緑片多 赤・少・ヘラ?)、滑石片、須恵瓦葺瓦	
0058	井戸	11世紀	白磁碗V型、黒色土器黒丸(口縁部小片)、土師碗(小片多 11C)、土師杯・皿(小片多 ヘラ・赤)、須恵瓦葺瓦(タタキに斜リ透タイプ)、須恵瓦葺瓦、横型埴	
0077	井戸	11世紀後半	白磁碗V型片、土師杯・皿(小片 赤・ヘラ)	
0079	土坑	12世紀?	白磁碗V型片、須恵瓦葺大甕(刺器片)、土師杯・皿(小片 赤・多 ヘラ・少)	
0390	土坑	12世紀	白磁碗V型片、須恵磁片、土師杯・皿(赤)	
0390	土坑	11~12期?	須恵瓦葺片?(底部片 赤)、瓦葺瓦葺鉢、土師7片、土師杯・皿(ヘラ少・赤多)	
0391	土坑	11~12世紀?	須恵瓦葺下瓦(斜格子 古代)、須恵瓦葺大甕(刺器片)、黒色土器B甕、土師碗、土師杯・皿(赤・ヘラ)	
0392 (0058)			瓦葺片?(赤 小片)、土師杯(底部片1点 ヘラ)、土師皿(底部片1点 ヘラ)	
0393	中世		土師杯・皿(ヘラ・赤)	
2001上層	溝	近世~近代	近代陶磁(磁、小瓶、いり呑みなど)、須恵系青磁碗1・須恵碗・須恵椀、白磁碗V型、白磁碗V型、陶器大甕(13C後)土製人形片、瓦葺大甕、瓦葺瓦葺鉢(13C)、陶器片、土師杯・皿(緑片 赤)、土師瓦葺片(横型埴 大型?) 内面に灰化付片、七輪、滑石片、砂器大鉢7、土師瓦葺瓦、須恵瓦葺瓦(小片 古代)	上層下層とも土師杯・皿の出土は多量で(都立に寄るものも)思われる
2001下層	溝	中世	須恵系青磁碗1類、白磁碗V・V型、白磁碗IX-3、白磁紅土、天目碗、陶器盆、陶器鉢、赤褐色陶器大甕(底部片)、須恵瓦葺、土師杯・皿(小片多 赤・ヘラ・少)、土師皿(12C中)、土師瓦葺鉢(12C中)、土師瓦葺大甕(横型埴)、土師瓦葺瓦(横型埴)、土師瓦葺瓦(横型埴)、土師瓦葺瓦(横型埴)	
2001下層A	土師皿?	12世紀	陶器小瓶、瓦葺瓦葺瓦(ナツ)、土師杯(赤 緑片少)、土師皿(緑片多 赤・多 ヘラ?)	
2001下層B	土師皿?	13~14世紀	白磁碗V型、瓦器碗(底部小片)、土師杯(緑片多 ヘラ?)、土師皿(緑片多量 ヘラ・少)	土師皿はほぼ完全形7点、余部で3~40点前後の小片も
3027	中世		陶器鉢? (小片)、土師瓦葺?、土師皿(赤?)	
3028	土坑	13世紀	須恵系青磁碗皿蓋、土師杯(赤)、土師皿(赤)	
3034	14世紀前半		須恵系青磁碗皿蓋、白磁碗片、陶器鉢(13C)、陶器盆、陶器盆(刺器小片 数個体)、陶器大甕(小片)、須恵瓦葺(口縁小片)、須恵瓦葺鉢7、土師杯・皿(赤)	陶器大甕は2060と同一体の可能性有。
2005	礎石基礎	13世紀以降	白磁片、陶器小瓶目録(13C)、黒色陶器(小片)、陶器鉢7、須恵瓦葺鉢7、須恵磁片7、土師碗?、土師皿(赤) 1点	いずれも小片
2005	14世紀以降		須恵系青磁碗、須恵系青磁碗口縁(13後~14C前)、白磁皿、陶器盆(底部片 13C後)、土師皿(14C前?)、土師杯・皿(小片 赤 赤)、土師瓦葺高台付皿	
2005-一段下げ	14世紀以降		須恵系青磁碗1・II・皿・IV型(14C)、須恵系青磁碗、白磁碗、白磁碗IX型、白磁碗、陶器盆(13C後)、陶器鉢、陶器片(多 特欠大甕、盤など)、須恵瓦葺、須恵瓦葺鉢(14C)、瓦葺瓦葺、土師瓦葺、土師瓦葺、土師杯・皿(緑片多 赤)、須恵瓦葺瓦(横型埴)、須恵瓦葺瓦(横型埴)、須恵瓦葺瓦(ナツ?)、滑石石鏡片、砂器	
2050上平	井戸	13世紀以降	須恵系青磁碗口縁、白磁小瓶、白磁碗IX型、常滑大甕(13~14C)、陶器盆、陶器盆(12~13C)、陶器片(横、盤など)、瓦葺片口縁片、土師杯(小片 赤)	
2055	須恵系青磁碗目録、青磁小瓶、白磁碗口縁?、陶器盆・耳取(底部小片)、陶器鉢(13C)、須恵瓦葺大甕、須恵瓦葺鉢(13C後半)、瓦葺瓦葺鉢、瓦葺瓦葺鉢、土師杯・皿(小片多 赤)、滑石人形片(石鏡面加工)、須恵瓦葺瓦(ナツ?)			
2055内側	井戸		須恵系青磁碗1・目録、白磁片(横、皿)、白磁碗IX型、陶器鉢・I型(13C)、陶器小瓶1類(12C前)、陶器片(横、盤など)、陶器大甕(刺器片) 須恵瓦葺蓋(7~8C)、須恵瓦葺、須恵瓦葺鉢(刺器片 椅子?)、瓦葺瓦葺鉢(14C?)、瓦葺瓦葺鉢、瓦器碗、土師杯・皿(小片多 赤)、土師瓦葺、瓦葺瓦葺瓦(瓦葺の一部?)、滑石石鏡片	
2055側方	井戸		須恵系青磁碗、白磁碗V型、陶器盆、陶器小瓶(12C?)、陶器小瓶、赤褐色陶器(小片のみ 赤・黒 13C?)、瓦葺瓦葺?、土師皿(刺器片)、土師杯・皿(小片 赤)、滑石石鏡片、須恵瓦葺瓦、土師杯・皿(赤)	
2055・2095	井戸		須恵系青磁碗小瓶(口縁小片)、陶器碗、陶器盆(刺器小片)、瓦葺瓦葺(刺器)、土師瓦葺鉢7、土師碗、土師杯・皿(赤)	
2056	2060の井筒	14世紀	須恵系青磁碗1・II・甕、青磁皿1類、白磁碗IX型、白磁片、常滑大甕(口縁)、黒色陶器(底部)、陶器鉢、陶器鉢、陶器鉢、須恵瓦葺(横型埴)、須恵瓦葺瓦(ナツ)、瓦葺瓦葺(少 小片)、土師杯(緑片多 赤切?)、土師皿(緑片多 赤切?)、土師瓦葺鉢(13C)、瓦葺瓦葺鉢(13C)、瓦葺瓦葺瓦(横型埴)	
2056-一段下げ			須恵系青磁碗目録、青磁皿、白磁碗、白磁碗IX型、陶器盆、陶器鉢、須恵瓦葺、土師杯(緑片多 赤)、土師皿(緑片多 赤)、滑石土師皿(少)、土師瓦葺瓦(斜格子)	
2056・2063			須恵系青磁碗小瓶(14C前)、青磁皿、白磁片、黒色陶器(甕?)、須恵瓦葺、須恵瓦葺鉢、陶器四耳甕(耳のみ)、土師杯(赤)、土師皿(赤)、土師瓦葺高台付埴、横型埴	
2057	礎石基礎	12C末~13C	陶器片(甕?)、須恵瓦葺鉢(12C末~13C)、土師杯(赤 小片)	
2058	石室	14世紀以降	須恵系青磁碗V型、須恵系青磁碗小瓶(13~14C)、白磁小瓶(小片)、陶器鉢、陶器盆(13C)、陶器盆、瓦器碗、瓦葺瓦葺鉢(12C)、瓦葺瓦葺、土師皿、土師杯・皿(小片多 赤)	
2060	井筒(南方2066)	14世紀	青白磁碗(小片)、須恵系青磁碗1・II・甕類(目録は見込みにスタン)、須恵系青磁碗口縁(数個体 配合せず 1点に取次文、13C中~14C前)、白磁碗IX型、白磁碗(小片 内面に草花文ナツ子 横型埴)、白磁碗IX型、白磁碗(小片 13~14C)、白磁片(口縁部小片)、常滑大甕(陶器5点前後)、1個体の緑片は少ない、須恵瓦 2点、うち1点は陶器に付着、陶器盆(少 12~14C)、陶器盆甕類(13C)、陶器鉢(13後~14C)、須恵瓦葺鉢(13C)、黒色陶器碗(底部片)、瓦葺大甕、滑石石鏡片(12~13C)、滑石(未加工)、砂器(?)	
2063上平	井戸?	12世紀?	須恵系青磁碗目録、青磁皿、白磁碗、白磁碗IX型(13C後~13C前半)、白磁碗IX型、陶器大甕、陶器鉢、陶器鉢、須恵瓦葺鉢(13C後)、瓦葺瓦葺、土師杯・皿(小片多 赤)、須恵瓦葺瓦(横型埴)、土師瓦葺瓦(ナツ?)	
2063	井戸?		須恵系青磁碗甕類、陶器盆、陶器鉢、土師碗、横土甕	
2065	井戸?		陶器盆(注口部)、陶器盆、陶器鉢7、土師瓦葺、土師碗、土師杯・皿(赤)	
2065物外側	井戸脇方		陶器片、土師碗、土師杯・皿(赤・ヘラ)、土師皿(古型時代?)、滑石片、横型埴	
2065側方	井戸脇方		須恵系青磁碗1類、白磁碗IX型(12C)、陶器盆(黒褐色陶器耳取)、須恵瓦葺、瓦器碗、土師皿(12C中頃)、高台付土師杯、土師杯・皿(緑片多 赤・多 ヘラ・少)、土師瓦葺高台付埴、横型埴、須恵瓦葺瓦(古代)	
2096	井戸	13世紀	須恵系青磁碗目録、白磁碗IX型、陶器片(横、盤など)、須恵瓦葺鉢(12~13C)、瓦器碗、土師杯・皿(小片多 赤)、土師7、滑石石鏡片、須恵瓦葺瓦(横型埴)、砂器	
2097	井戸	中世	土師皿(小片2点)	
2129	中世		白磁碗片、土師杯(赤)	
2129 籠	中世		白磁片(蓋?・横)、土師杯・皿(緑片多 赤)	
2129・2145	中世		土師皿(赤)	
2154	12世紀		白磁碗(V・V型)、須恵系青磁碗、陶器片、須恵瓦葺大甕(刺器片)、瓦器碗、土師碗、土師杯・皿(赤)、滑石石鏡片、須恵瓦葺瓦(横型埴)、横型埴、滑石石鏡片、砂器	
2154 籠	古代末~中世		土師瓦葺、瓦器碗、土師杯・皿(赤)	
2173	陶器片、土師皿片、横型埴			
2199上平	須恵系青磁碗1類、白磁碗、土師杯(多 赤)、土師皿(赤)			
2210	須恵系青磁碗中出			



1) I区I面全景（西から）



2) II区I面全景（東から）



1) I区2面全景(西から)



2) II区2面全景(東から)



1) I区3面全景（西から）



2) II区3面全景（東から）



1) I区4面南半(西から)



2) II区4面南半(東から)



1) I区5面南半(西から)



2) I区5面北半(西から)



1) II区6面南半(東から)



2) SE2055(北から)



3) SE0225(西から)



4) SE0226(北から)



5) SE0336井筒(東から)



1) SE2060 (北東から)



2) SK0122 上半土層 (東から)



3) SK0122 下半土層 (東から)



4) SK0122 完掘 (北から)



5) SK0174 上面 (西から)



6) SK0174 焼土面上遺物出土状況 (南から)



7) SK0174 焼土面 (南から)



8) SK0174 下層 (西北から)



1) 0066 (0097) (北から)



2) 0072 (東から)



3) 0096 (東から)



4) 0156 (北から)



5) 0175 検出状況 (北から)



6) 2027 (北から)



7) 2033 (東から)



8) 2139 (西から)



1) 0278 (北から)



2) 0295 (南西から)



3) 2173 (北から)



4) 2199 (北から)



5) SK0162 (南から)



6) SK2035 (北から)



7) SK2057 (西から)



8) SK2058 (南から)



1) 0182 土層 (北から)



2) SE2060 石白出土状況



3) 2210 蛸壺出土状況 (東から)



4) SD2001 土層 (東から)



5) 2001 下層 B (南から)



1) 調査区東壁南半 (西から)



2) 焼土ブロック整地層下白色粘土整地層上面遺構検出状況 (西から)



1) 調査区東壁土層部分 1



2) 調査区東壁土層部分 2

報告書抄録

ふりがな	はこぎき 60							
書名	箱崎 60							
副書名	箱崎遺跡第95次調査報告							
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第1425集							
編著者名	屋山洋							
編集機関	福岡市教育委員会							
所在地	福岡市中央区天神1丁目8-1							
発行年月日	2021年3月25日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
箱崎遺跡	福岡市東区箱崎 1丁目2672, 2684 -1	40131	2639	33° 37' 0"	130° 25' 28"	20190311 ～ 20190529	186㎡	共同住宅 建設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	集落	古代～近世	井戸・溝・土坑	古代土師器・須恵 器・貿易陶磁・近 世陶磁				
要約	<p>箱崎遺跡は博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に立地する。今回の95次調査区は西側に向かって傾斜する斜面上に位置するが、調査区内では砂丘面が南側に向かって傾斜しており、250m南の箱崎宮との間に浅い谷があるものと思われる。砂丘面は調査区北端で標高3.5m、南端で3.0mと50cmの高低差があるが、平安時代末から鎌倉時代前期頃に盛土を行い、ほぼ平坦となっている。この盛土に伴う建物などは検出されておらず、盛土の目的は現在不明である。盛土上には厚さ1～7cm前後の整地層が何層かみられる。13世紀後半頃には火災に伴う厚さ10cm強の焼土ブロックによる整地層がみられる。その上にも厚さ数cmの整地層が続き14世紀中頃にはGL-40cm(標高4.1m)ぐらまで嵩上げされるが、その頃に栗石を伴う礎石が2基みられる。礎石は後世の井戸によりほとんどが削平されて建物規模は不明である。また、13世紀後半頃から井戸が集中して掘られるようになり、調査区西側で多数の井戸が出土した。SE2060の井筒中層からは14世紀中頃の常滑甕を中心とする陶器破片が多く出土した他、礎石のような平らな礎が焼土とともに多く出土した。調査区南縁に沿って溝状の掘り込みを確認したが、中世から近世・近代まで何度も掘り直されており、その中には中世の土師血産糞土坑なども確認した。</p>							

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1425集

箱崎60

—箱崎遺跡第95次調査報告—
2021年(令和3年)3月25日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8-1
印刷 株式会社ミドリ印刷
福岡市博多区博多駅南6-17-12

箱

崎

60

—箱崎遺跡第95次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書1425集

二〇二二

福岡市教育委員会